

弘前大学医学部附属病院 専門研修プログラム

弘前大学医学部附属病院総合臨床研修センター

2027年度



社会から信頼される専門医を目指して

弘前大学医学部附属病院長

横山 良仁



2018年4月に開始された新専門医制度は着実に定着し、現在では毎年90～95%程度の臨床研修修了者が専門研修プログラムに登録しています。専門医取得は、医師としての標準的なキャリア形成の一つになっています。これから真に求められるのは、社会から信頼される、良き専門医になることです。弘前大学医学部附属病院(本院)では、充実した専門研修プログラムを整え、皆さんをお待ちしています。

日本専門機構は、「専門医」を、それぞれの診療領域において適切な教育を受け、十分な知識と経験を備え、患者から信頼される標準的な医療を提供できるとともに、先端医療を理解し、適切に情報提供ができる医師と定義しています。本院の専門研修プログラムは、こうした専門医に求められる資質を十分に修得できる環境が整っています。

1. 専攻医の多様な志向性に応えることができる

本院では、日本専門医機構が定める19の基本領域のすべてに対応するとともに、サブスペシャリティ領域についても専門研修体制を整備しています。さらに、今後専門医機構の認定対象となる可能性のある学会認定専門医制度も含め、幅広い領域をカバーしており、専攻医の一人ひとりの多様な志向や将来設計に応えることができます。

2. 豊富な診療経験を積むことができる

弘前大学は、歴史ある大学として青森県を中心に北東北から南北海道に至るまで、多くの専門研修連携施設を有しています。加えて、全国の医療機関と連携しながら専門研修の充実を図っているプログラムもあります。多彩で豊富な症例を通じて、十分な診療経験を積むことが可能です。

3. 最新の専門診療を深く学ぶことができる

基幹施設である本院には、基本領域、サブスペシャリティ領域のいずれにおいても、国内でも屈指の指導陣がそろっており、世界水準の最新の専門診療が日常的に行われています。さらに、専門研修関連施設との密接な連携のもと、いずれのプログラムにおいても専門診療を深く学ぶことができます。

4. 先端医療を学び、経験することができる

本院は、特定機能病院として、高度で先進的な医療の提供、高度医療技術の開発、そして高度医療に関する研修を担っています。「先端医療を理解し、情報を提供できる医師」となるために、本院は最適の環境を備えています。

5. Academic physicianを目指すための環境が充実している

専門医には、目の前の患者さんに最適な医療を提供するだけでなく、未来の患者さんを救うために医学の発展へ貢献する姿勢も求められます。日々の診療の中から臨床的課題を見出し、それを解析し、解決へとつなげていく営みは極めて重要です。弘前大学では、こうした課題解決を目指す大学院での研究活動と、専門医取得とを両立できる体制が整えられています。ぜひ、確かな臨床力と豊かなリサーチマインドを兼ね備えたAcademic physicianを目指してください。

■ 病院長あいさつ

弘前大学医学部附属病院長 横山 良仁	巻頭
--------------------	----

■ 病院案内	04
--------	----

■ 専門研修プログラム概要	06
---------------	----

■ 基本領域専門研修プログラム

〈内 科〉弘前大学医学部附属病院内科専門研修プログラム	08
-----------------------------	----

- 消化器内科, 血液内科, 免疫内科
- 循環器内科, 腎臓内科
- 呼吸器内科, 感染症科
- 内分泌内科, 糖尿病代謝内科
- 脳神経内科
- 腫瘍内科
- がんゲノム医療科

〈精 神 科〉

弘前大学病院連携施設精神科専門研修プログラム	18
------------------------	----

〈小 児 科〉弘前大学医学部附属病院小児科研修医（専攻医）プログラム	20
------------------------------------	----

〈外 科〉弘前大学外科専門医専門研修プログラム	22
-------------------------	----

- 呼吸器外科, 心臓血管外科
- 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科
- 小児外科

〈整形外科〉弘前大学整形外科専門研修プログラム	28
-------------------------	----

〈リハビリテーション科〉

青森県リハビリテーション科専門研修プログラム	30
------------------------	----

〈皮 膚 科〉弘前大学医学部附属病院皮膚科専門研修プログラム	32
--------------------------------	----

〈泌尿器科〉弘前大学泌尿器科専門研修プログラム	34
-------------------------	----

〈眼 科〉弘前大学眼科専門研修プログラム	36
----------------------	----

〈耳鼻咽喉科〉弘前大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラム	38
---------------------------------------	----

〈放射線科〉青森放射線科専門研修プログラム	40
-----------------------	----

〈産婦人科〉弘前大学産婦人科専門研修プログラム	42
-------------------------	----

〈麻 酔 科〉弘前大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム	44
--------------------------------	----

〈脳神経外科〉弘前大学医学部脳神経外科専門研修プログラム	46
------------------------------	----

〈形成外科〉弘前大学形成外科専門研修プログラム	48
-------------------------	----

〈救 急 科〉弘前大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム	50
--------------------------------	----

〈臨床検査〉弘前大学臨床検査専門研修プログラム	52
-------------------------	----

〈病 理〉青森・弘前大による病理専門研修プログラム	54
---------------------------	----

〈総合診療〉弘前大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム	56
--------------------------------	----

■ 学会認定養成コース

口腔外科専門医養成コース	58
--------------	----

■ 専門研修プログラムQ&A

Q 1. 新専門医制度って？	60
Q 2. 専門医って、どうすればなれるのですか？	61
Q 3. 学位は必要ですか？	61
Q 4. 学位を目指す専門医の取得が遅れるのでは？ 大学院についても教えてください。	62
Q 5. 大学外の病院で引き続き専門研修を受ける場合とどこが違うのですか？	63
Q 6. 初期研修を弘前大学で受けませんでした。 それでも、専門研修は大学で受けられますか？	64
Q 7. 女性でも安心して研修できますか？	64
Q 8. 弘前大学の特徴は？	64
Q 9. 大学は給与が低いと聞きました。弘前大学医学部附属病院における待遇は？	65
Q 10. 迷っているあなたへ	65

■ 専門研修医に対する研修補助事業 66

■ 先輩医師からのメッセージ 68

病院案内

■ 病院の特徴

昭和20年青森医学専門学校附属病院として開設、同年戦災により消失し、青森医学専門学校が弘前市に移転されるに伴って、弘前市立弘前病院を附属医院として移管開設、以来附属病院としてその体制を整え、特定機能病院として高度な先進医療を地域に提供しているのはもとより、教育・研究病院として卒後教育を通じて、広く地域医療機関との教育・診療上の連携を図っている。

■ 診療科

消化器内科、血液内科、免疫内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、内分泌内科、糖尿病代謝内科、感染症科、脳神経内科、腫瘍内科、がんゲノム医療科、神経科精神科、小児科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、放射線治療科、放射線診断科、産科婦人科、麻酔科、集中治療科、脳神経外科、形成外科、小児外科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、リハビリテーション科

■ 中央診療施設等

手術部、検査部、放射線部、材料部、輸血部、集中治療部、周産母子センター、病理部、医療情報部、光学医療診療部、リハビリテーション部、総合診療部、血液浄化療法部、高圧酸素治療室、強力化学療法室、臨床工学部、臨床研究推進センター、総合臨床研修センター、歯科医師卒後臨床研修室、腫瘍センター、栄養管理部、病歴部、高度救命救急センター、スキルアップセンター、総合患者支援センター、メディカルスタッフ教育研修センター、遠隔医療センター

医療安全推進室、感染制御センター、薬剤部、看護部、医療技術部、病院長戦略室



病院外観正面



第二病棟

中央診療棟

大学院保健学研究科・
医学部保健学科

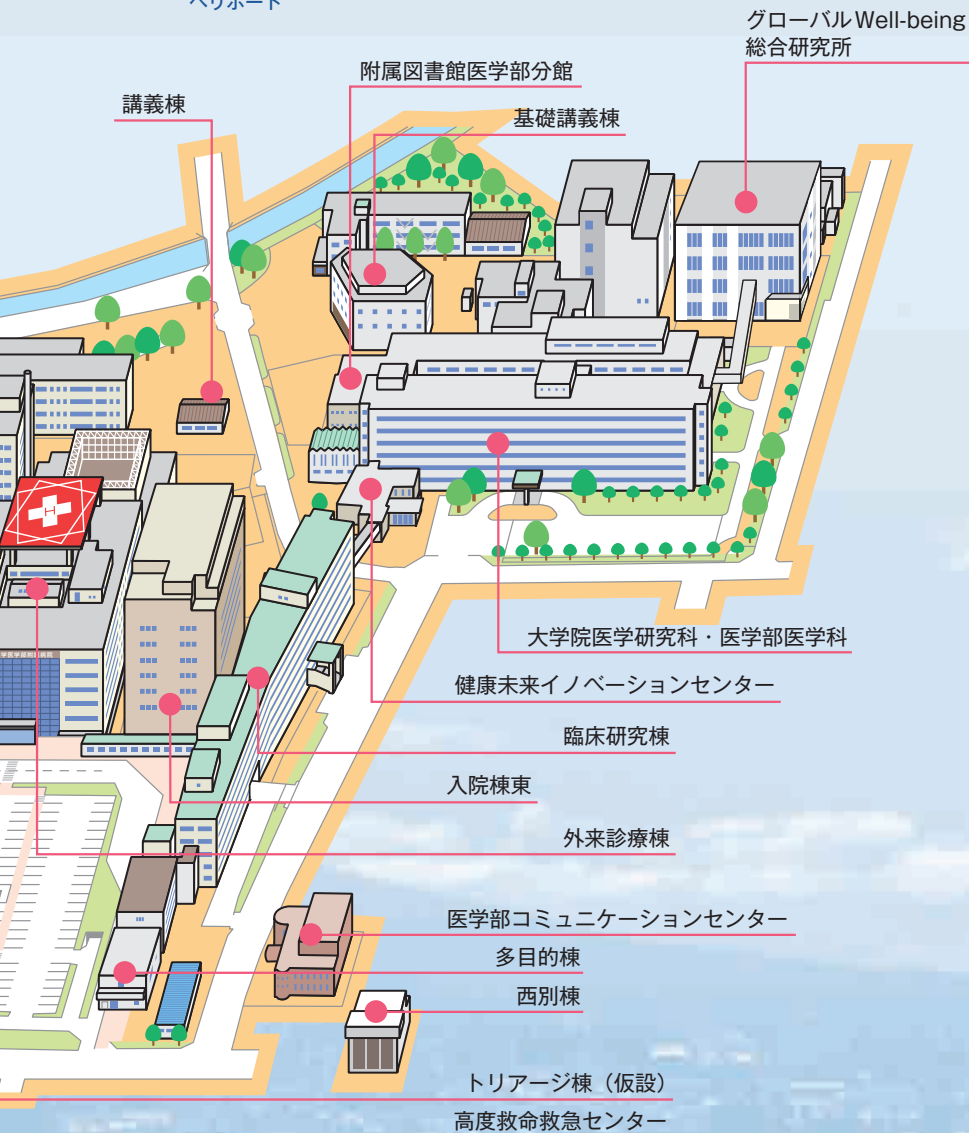
立体駐車場

臨床研究棟





ヘリポート



高度救命救急センター



■ 先進医療（令和8年4月1日現在）

1. S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法
2. 膜構造を用いた生理学的精子選択術
3. 流死産検体を用いた遺伝子検査
4. 子宮内細菌叢検査1
5. 子宮内膜受容能検査1

■ 医師数（令和8年4月1日現在）

430名

■ 1日平均入院患者数（令和7年度）

521.4名

■ 1日平均外来患者数（令和7年度）

1,693名

■ 病院の沿革

- | | |
|----------|--|
| 1949年5月 | 国立学校設置法により青森医学専門学校、弘前医科大学を包括、新制弘前大学医学部設置
弘前大学医学部設置に伴い、青森医学専門学校附属病院は医学部附属病院と改称 |
| 1951年4月 | 医学部開設 |
| 1958年4月 | 国立学校設置法の一部を改正する法律の公布により大学院（医学研究科）設置 |
| 2000年10月 | 医学部保健学科設置 |
| 2004年4月 | 国立大学法人法により弘前大学医学部設置 |
| 2006年4月 | 専門医養成コース（後期臨床研修）開始 |
| 2018年4月 | 日本専門医機構認定
専門研修プログラム開始 |

プログラム概要

平成16年度に必修化された卒後臨床研修制度は、臨床医として必要な基本的診療能力を身につけることにその主眼が置かれていますが、医師として自らの判断に基づき責任をもって独力で患者の診断や治療を行えるようになるには、更に専門性の高い研修を重ねることが求められ、それぞれの分野における高度な知識や最新の技術等の修得が必要となってきます。このような研修を専門研修と呼び、また専門医資格はそのような医師としての力量を示す一つの証（あかし）と言えるでしょう。弘前大学医学部附属病院ではこれまで長きにわたり、数多くの専門医を育成してきた実績と伝統があります。

しかしながら専門医制度は、大きな転換点を迎えました。2018年度からは新専門医制度がスタートし、それまで学会が主体となって運営されていた各分野の専門医制度が、第三者機関である日本専門医機構が学会と連携しながら運営する方式に変わりました。また、内科、小児科、皮膚科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、形成外科、リハビリテーション科の18の領域に加え、新たに総合診療専門医が基本領域専門医として正式に位置づけられています。従来からおなじみの循環器専門医、消化器外科専門医などの資格は、基本領域専門医を一階部分とすれば二階部分に相当するサブスペシャリティ領域専門医として位置づけられることになります。

弘前大学医学部附属病院の専門研修プログラムは、19の基本領域専門医の養成プログラムを全て整備していることに加え、その先にあるサブスペシャリティ領域専門医の養成も見据えています。青森県内を中心とした数多くの連携施設（いわゆる関連病院）とともに地域医療を支えつつ、豊富な指導医陣のもと、専攻医（専門医資格を目指して研修中の医師）は十分な臨床経験を積めるよう各プログラムには配慮と工夫がなされています。また本学の研修は、大学としての特長を生かし、先端的な医療技術の研修と並行して大学院でも学ぶことによりリサーチマインド形成も目指しています。将来その分野の先端を担う人間性豊かな良医の育成と科学的な思考能力の涵養、最先端の医療技術の習得を全て可能としているのが本学の専門研修の特色と言えます。

臨床研修後の進路のイメージ図（医科）



基本領域専門研修プログラム

※プログラムの詳細については、総合臨床研修センターホームページをご覧ください。
<https://edpostgr.hosp.hirosaki-u.ac.jp/med-residency/>

	基本領域名	プログラム名	当院担当診療科・部
1	内科	弘前大学医学部附属病院内科専門研修プログラム	消化器内科, 血液内科, 免疫内科 循環器内科, 腎臓内科 呼吸器内科, 感染症科 内分泌内科, 糖尿病代謝内科 脳神経内科 腫瘍内科 がんゲノム医療科
2	精神科	弘前大学病院連携施設精神科専門研修プログラム	神経科精神科
3	小児科	弘前大学医学部附属病院小児科研修医(専攻医)プログラム	小児科
4	外科	弘前大学外科専門医専門研修プログラム	呼吸器外科, 心臓血管外科 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科 小児外科
5	整形外科	弘前大学整形外科専門研修プログラム	整形外科
6	リハビリテーション科	青森県リハビリテーション科専門研修プログラム	リハビリテーション科
7	皮膚科	弘前大学医学部附属病院皮膚科専門研修プログラム	皮膚科
8	泌尿器科	弘前大学泌尿器科専門研修プログラム	泌尿器科
9	眼科	弘前大学眼科専門研修プログラム	眼科
10	耳鼻咽喉科	弘前大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラム	耳鼻咽喉科頭頸部外科
11	放射線科	青森放射線科専門研修プログラム	放射線治療科 放射線診断科
12	産婦人科	弘前大学産婦人科専門研修プログラム	産科婦人科
13	麻酔科	弘前大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム	麻酔科・集中治療科
14	脳神経外科	弘前大学医学部脳神経外科専門研修プログラム	脳神経外科
15	形成外科	弘前大学形成外科専門研修プログラム	形成外科
16	救急科	弘前大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム	救急科, 高度救命救急センター
17	臨床検査	弘前大学臨床検査専門研修プログラム	検査部
18	病理	青森・弘前大による病理専門研修プログラム	病理診断科, 病理部
19	総合診療	弘前大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム	総合診療部

学会認定養成コース

	養成コース名	当院担当診療科
1	口腔外科専門医養成コース	歯科口腔外科

弘前大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

プログラムの特徴

弘前大学医学部附属病院を基幹施設として、青森県内および秋田県北部を含む近隣医療圏を中心とした連携施設・特別連携施設において内科専門研修を行うことにより、地域の実情に合わせた適切な医療を実践することができ、かつリサーチマインドを有する優れた内科専門医を育成することを目指します。

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や希望に合わせて「Subspecialty 重点コース」または「内科基本コース」を選択することができます。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

弘前大学医学部附属病院は青森県内の基幹施設の中で唯一、13の内科Subspecialty 領域すべての専門医がいる施設であり、内科専門医として求められる疾患を経験する上で大変有利です。

県内を中心として多くの自治体病院が連携施設に加わっているため、専攻医としての研修は青森県内および秋田県北部の地域の医療に貢献することになります。

さらに、将来目指すSubspecialty 領域が決定していれば、Subspecialty 重点コースを選択することで、内科専門医の次の専門医（Subspecialty 領域専門医）取得もスムーズになります。

研修先及び研修内容

1年目 (卒修3年目) ～ 3年目	専攻医1年目または2年目のうち1年間は連携施設での研修を行います。専攻医2年修了時までに、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群を経験し登録します。
	専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できるように研修します。
	専攻医3年目は、内科専門医試験受験のための病歴要約の修正を行います。症例経験は、3年目修了時で、70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、120症例以上、可能な限り70疾患群、200症例以上を目標とします。Subspecialty 重点コースでは、3年間のうち、最長2年間で希望するSubspecialty 領域の研修と重複させることができます。

I. Subspecialty 重点コース

- ① 消化器・肝臓内科、血液内科、免疫内科重点コース
- ② 循環器内科、腎臓内科重点コース
- ③ 呼吸器内科重点コース
- ④ 内分泌代謝内科重点コース
- ⑤ 脳神経内科重点コース
- ⑥ 腫瘍内科重点コース

II. 内科基本コース

専門研修連携施設・特別連携施設

1	青森市民病院	16	あおもり協立病院
2	青森県立中央病院	17	大館市立総合病院
3	健生病院	18	国立循環器病研究センター
4	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター	19	昭和医科大学病院
5	弘前中央病院	20	昭和医科大学藤が丘病院
6	国立病院機構弘前総合医療センター	21	昭和医科大学横浜市北部病院
7	青森労災病院	22	昭和医科大学江東豊洲病院
8	八戸市立市民病院	23	国立がん研究センター東病院
9	国保黒石病院	24	がん研究会有明病院
10	つがる総合病院	25	国立病院機構東京病院
11	十和田市立中央病院	26	神奈川県立循環器呼吸器病センター
12	三沢市立三沢病院	27	かなぎ病院★
13	むつ総合病院	28	鱒ヶ沢病院★
14	板柳中央病院	29	野辺地病院★
15	国立病院機構青森病院		

★特別連携施設

サブスペシャルティ領域への展望

内科学における13のSubspecialty 領域の研修が可能です。内科専攻医になる時点で将来目指すSubspecialty 領域が決定していれば、Subspecialty 重点コースを選択することになります。内科重点コースを選択していても、基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことが可能です。

大学院・留学について

将来目指すSubspecialty 領域を担当する講座によって異なります。早い場合は初期研修修了後に大学院進学が可能となります。基礎医学の大学院に進んだ場合は在学中の臨床経験は内科研修とみなされません。

統括責任者・副統括責任者

統括責任者

富田 泰史（循環器腎臓内科学講座 教授）

副統括責任者

櫻庭 裕文（消化器血液免疫内科学講座 教授）

藤田 征弘（内分泌代謝内科学講座 教授）

内科指導医からのメッセージ・問い合わせ先

消化器内科、血液内科、免疫内科

消化器・血液・免疫内科では、内科専門医研修と並行して、消化器病・消化器内視鏡・肝臓・血液・リウマチ膠原病のSubspecialty領域の専門研修を行います。基礎となる内科疾患全般の診断学と病態を考えた治療を学びながら、各専門領域の経験を積み上げていく研修です。一緒に強い内科医を目指しましょう。

問い合わせ先

担当者：飯野 勢（消化器血液免疫内科学講座 准教授）
tel 0172-39-5053 fax 0172-37-5946
e-mail ichinai@hirosaki-u.ac.jp
HP <https://ghi-hirosaki-u.com>

内分泌内科、糖尿病代謝内科

内科学一般、内分泌疾患ならびに糖尿病を中心とする代謝疾患の診断、治療を行い、内科専門医の受験資格が得られるよう研修を指導致します。糖尿病患者の教育、診療の基礎、チーム医療の進め方につき研修致します。内分泌疾患の診断や治療の最先端を指導致します。

問い合わせ先

担当者：高安 忍（内分泌代謝内科学講座 准教授）
tel 0172-39-5062 fax 0172-39-5063
e-mail sannai@hirosaki-u.ac.jp
HP <https://hirosaki-u-endocrine.jp>

脳神経内科

脳神経内科診療は、慢性疾患から急性疾患まで多様性に富み、わくわくの連続で、飽きることは決してありません。きっとあなたの好奇心を刺激することでしょう。楽しみながら、共に学び、当地域の脳神経内科診療を充実させていきましょう。

問い合わせ先

担当者：村上 千恵子（脳神経内科学講座 准教授）
tel 0172-39-5142 fax 0172-39-5143
e-mail neurol@hirosaki-u.ac.jp

循環器内科、腎臓内科

当科では内科領域を幅広く学ぶとともに、循環器内科もしくは腎臓内科の専門医取得を目指したSubspecialty研修を行います。どちらの領域においても数多くの症例を通じて最新の知識と技術を習得できます。幅広い内科学全般の素養を基礎とした循環器内科医、腎臓内科医を目指す皆さんにとって最適のコースです。

問い合わせ先

担当者：木村 正臣（不整脈先進治療学講座 准教授）
tel 0172-39-5057 fax 0172-35-9190
e-mail ninaika@hirosaki-u.ac.jp
HP <https://hirosaki-u-cn.jp/>

腫瘍内科

2人に1人が生涯がんを罹患する時代です。内科医師には、がん患者を診る力が要求されます。腫瘍内科では、薬物治療を通じて、新規薬剤開発やゲノム医療などに従事すると同時に、治療困難な患者と真摯に向き合う態度や技術を学びます。全人的医療の実践を通して、理想の内科医になることを援助します。

問い合わせ先

担当者：佐藤 温（腫瘍内科学講座 教授）
tel 0172-39-5346 fax 0172-39-5347
e-mail shuyo@hirosaki-u.ac.jp
HP <https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/~oncology/>

呼吸器内科、感染症科

呼吸器内科では悪性腫瘍、感染症、喘息など多彩な疾患を扱います。また画像診断や呼吸機能などで疾患を多角的に捉え、内視鏡や呼吸管理も必要とされる奥の深い分野です。当科では楽しく呼吸器病学を学び、専門医を取得できるようなプログラムを準備しています。（呼吸器内科学講座 教授・田坂 定智）

問い合わせ先

担当者：田坂 定智（呼吸器内科学講座 教授）
tel 0172-39-5468 fax 0172-39-5469
e-mail kokyuuki@hirosaki-u.ac.jp
HP <https://hirosaki-u-respiratory-medicine.jp/>

がんゲノム医療科

今の時代、がん治療にがんゲノム診断は必要不可欠となっています。がんゲノム医療科ではがんゲノム診断に基づいたがん治療を通して、新規治療法の開発や副作用に対する支持療法を学びながら、がん薬物療法専門医取得を目指したSubspecialty研修を行います。一緒に青森県のがん治療向上を目指しましょう。

問い合わせ先

担当者：結城 敏志（がんゲノム医療学講座 教授）
tel 0172-39-5587
e-mail yuki.satoshi.xc@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学病院連携施設精神科専門研修プログラム

プログラムの特徴

基幹病院となる弘前大学の神経科精神科は、35床のベッドを有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。特に薬物療法、乳幼児・児童思春期診療は日本を代表する医療施設となっており、豊富な症例と研究に接することができる。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っている。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

むつ総合病院、つがる総合病院、十和田市立中央病院、八戸市立市民病院といった青森県内の主要医療機関（総合病院）の精神科に加え、触法患者が豊富な青森県立つくしが丘病院、m-ECTセンターのある弘前愛成会病院や北東北てんかんセンターを併設する湊病院といった県内主要3市にある単科精神科病院が連携施設に属しており、専攻医はこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。さらに、精神保健行政機関とも連携しており、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能である。

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与している。複雑を極める精神現象を理解して、治療するため、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてを治療の対象とし、アプローチも脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る。この多様性をもって、謎に包まれた心と脳の神秘に肉薄することこそが弘前大学神経科精神科の特色である。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

各年度、研修施設をローテートすることが望ましい。
連携施設に研修中でも基幹病院での研究や論文の指導は可能である。以下、研修計画例を示す。

ローテーションのパターン

1年目 (卒後3年目)	基幹病院	※カリキュラム制などにより、基幹病院以外からスタートも可
2年目	総合病院 または 単科病院	※経験症例により、基幹病院研修の継続は可能
3年目	総合病院 または 単科病院	※基幹病院・行政機関研修は可能

専門研修連携施設

1	市立函館病院	13	こころのケアセンターふよう
2	つがる総合病院	14	むつ総合病院
3	青森県立つくしが丘病院	15	黒石あけぼの病院
4	弘前愛成会病院	16	青南病院
5	高松病院	17	東台病院
6	十和田市立中央病院	18	十和田済誠会病院
7	松平病院	19	なるかわ病院（北海道）
8	聖康会病院	20	藤代健生病院
9	青森県立精神保健福祉センター	21	青森県立中央病院
10	八戸市立市民病院	22	多摩あおば病院
11	布施病院	23	生協さくら病院
12	湊病院	24	健生クリニック

サブスペシャリティ領域への展望

弘前大学精神科研修プログラムでは、各指導医が児童青年精神医学、臨床精神神経薬理学、臨床薬理学などのサブスペシャリティを有しています。

専攻医が興味あるサブスペシャリティ領域については、精神科専門医取得後、さらなる専門研修を受けることができます。

大学院・留学について

専門研修と並行して大学院履修コースがあります。研究については指導医がつき4年間で修了し、医学博士が取得できます。さらに研究を継続する方は、理化学研究所、大阪大学・浜松医科大学・金沢大学子どものこころの発達研究センター、カリフォルニア大学サンフランシスコ校などと連携して研究を行います。

指導医からのメッセージ

弘前大学医学部神経精神医学講座は講座開設以来70年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残してきた。現在も日本の精神医療を牽引する存在として、医局員は幅広い領域で活躍している。弘前大学病院専門医研修プログラムでは、精神科医専門医として総合的な知識とスキルを身につけるだけでなく、薬物療法、乳幼児・児童思春期に特化している点が他の施設群にはない弘前大学特有の研修となっている。

問い合わせ先

神経科精神科

担当者：富田 哲（神経精神医学講座 准教授）

tel 0172-39-5066 fax 0172-39-5067

e-mail ttomita@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学医学部附属病院小児科研修医(専攻医)プログラム

プログラムの特徴

- ① 大学病院と関連病院をローテートし、総合診療領域（一般小児科）および小児の専門領域を研修することにより、小児科診療を広く、深く極めることができます。
- ② 小児科専門医修得後、より高度な専門医、指導医を目指した研修体制が整っています。
- ③ 子どもたちにとって最良の小児科医を育成しています。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

本プログラムでは、専門研修基幹施設である弘前大学医学部附属病院を中心に専門医研修連携施設群をローテーションし、一般小児科からNICUを含めた各専門分野まで幅広く研修し、こどもの総合診療医としての能力が身につけられるように指導します。

研修先及び研修内容

1年目 (卒後3年目)	感染症や小児保健などの一般小児科および新生児の研修 一般小児科：弘前総合、青森県立中央、青森市民、むつ総合、大館市立総合、つがる総合、国立青森、八戸市立市民、岩手県立中部（各病院1～2名） 新生児：青森県立中央（1～2名）、弘前総合（1～2名）
2年目	小児科専門領域研修 血液腫瘍：大学病院（1～2名） 循環器：大学病院（1～2名） 神経・内分泌：大学病院（1～2名） 腎臓・膠原病：大学病院（1～2名） 新生児：青森県立中央（1～2名）、弘前総合（1～2名）、大学病院（1～2名）
3年目	一般小児科、新生児および小児科専門領域研修 小児科専門領域研修：血液腫瘍：大学病院（1～2名）、循環器：大学病院（1～2名）、神経・内分泌：大学病院（1～2名）、腎臓・膠原病：大学病院（1～2名）、新生児：青森県立中央（1～2名）、弘前総合（1～2名）、大学病院（1～2名） 一般小児科：弘前総合、青森県立中央、青森市民、むつ総合、大館市立総合、つがる総合、国立青森、八戸市立市民、岩手県立中部（各病院1～2名） 健生病院、十和田市立中央、三沢市立（各病院1～2名）

専門研修連携施設

1 国立病院機構弘前総合医療センター	7 国立病院機構青森病院
2 青森県立中央病院	8 八戸市立市民病院
3 青森市民病院	9 岩手県立中部病院
4 むつ総合病院	10 健生病院
5 大館市立総合病院	11 十和田市立中央病院
6 つがる総合病院	12 三沢市立三沢病院

サブスペシャリティ領域への展望

弘前大学小児科研修医プログラムでは各指導医が小児血液・がん、小児神経、小児循環器、腎臓等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来指向する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができます。なお、専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加も積極的に行います。

大学院・留学について

専門研修と並行して大学院履修コースあり。専門研修の年次にかかわらず希望者は大学院進学可能。

専門医取得後、希望者は国内外への留学可能。

指導医からのメッセージ

小児科は、将来を担う子ども達を対象とし、小児科医には次代の日本を背負う子ども達を健全な成人に育て上げるという大切な使命があります。また、小児科は内科に匹敵する幅広い分野を細分化し、専門的に高度な医療を進めていく一方、こどもの成長・発達を基盤にした全人的・総合的な診療が必要とされます。一般小児医療のみならず、健診、予防接種、学校保健など保健活動も重要な領域で、小児科医が活躍できる領域は広範囲にわたります。最近は、「こどもは小児科専門医へ」との風潮が強まり、少子化にも関わらず小児科の患者数は年々増加し、社会から強く小児科医の必要性が要求されています。

小児科医療には忙しさや厳しさはありますが、それに勝る大きな夢や喜び、やりがいがあります。この3Yを多くの方々と共有したいと考えています。小児科に興味のある方は、是非下記までご連絡下さい。

問い合わせ先

小児科

担当者：北川 陽介（小児科 病院助手）

tel 0172-39-5070 fax 0172-39-5071

e-mail kyosukes7j2@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学外科専門医専門研修プログラム

プログラムの特徴

弘前大学外科専門医研修プログラムでは、消化器から心臓血管など広い外科領域で多くの症例を経験することにより、多くの患者様から必要とされる外科医になるためのしっかりとした基盤を習得できることを特徴としています。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

本研修プログラムは基本的に研修後4年目以降に日本外科学会外科専門医を取得するために2つのコースが選択できます。

研修カリキュラムの具体例

	専門研修1年目（卒後3年目）		専門研修2年目	専門研修3年目	4年目以降
コース1	連携施設		連携施設/基幹施設	基幹施設	専門医取得
			大学院入学		
コース2	基幹施設	連携施設	基幹施設		専門医取得
			大学院入学		

専門研修連携施設

1	市立函館病院	15	つがる総合病院
2	函館渡辺病院	16	かなぎ病院
3	むつ総合病院	17	大館市立総合病院
4	青森県立中央病院	18	弘愛会病院
5	青森市民病院	19	健生病院
6	野辺地病院	20	JCHO秋田病院
7	三沢市立三沢病院	21	白生会クリニック
8	七戸病院	22	国保黒石病院
9	十和田市立中央病院	23	青森厚生病院
10	八戸市立市民病院	24	沖縄県立中部病院
11	青森労災病院	25	沖縄県立八重山病院
12	国立病院機構弘前総合医療センター	26	青森新都市病院
13	弘前中央病院	27	千葉県こども病院
14	鯉ヶ沢病院		

サブスペシャリティ領域への展望

サブスペシャリティ領域：サブスペシャリティ領域の専門医連動コースは認められておらず、弘前大学医学部附属病院でサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓・血管外科、呼吸器外科、小児外科）または外科関連領域（乳腺など）の専門研修は外科専門医研修プログラムが修了してから開始されます。しかし、外科専門研修期間に1年以内を目途にサブスペシャリティ領域を重点的に研修することができます。

大学院・留学について

大学院に進学し、臨床研究または学術研究・基礎研究を開始することができます。ただし、研究専任となる基礎研究は6ヶ月以内とします。

統括責任者・副統括責任者

統括責任者

石戸 圭之輔（消化器外科学講座 教授）

副統括責任者

皆川 正仁（胸部心臓血管外科学講座 教授）

平林 健（小児外科 准教授，診療教授）

外科指導医からのメッセージ・問い合わせ先

呼吸器外科

本外科専門医研修プログラムは、外科専門医を目指し必須の知識や手術を経験するのに十分な内容です。サブスペシャリティとして呼吸器外科診療を行っている現在でも、外科専門医研修で学んだ手術手技や周術期管理が基礎となっております。将来どの専門を選ぶにしても、活かされることと思います。

問い合わせ先

呼吸器外科

担当者：木村 大輔

（胸部心臓血管外科学講座 准教授）

tel 0172-39-5074 fax 0172-37-8340

e-mail d-suke@hirosaki-u.ac.jp

心臓血管外科

心臓外科や血管外科の知識や手術を、ひと通り経験できる研修内容となっています。外科治療において、脈管吻合や血行再建、血管処理といった技術は欠かすことのできない要素であり、これらについて短期間に学ぶことができます。また、心臓血管外科手術後の全身管理や薬物治療についても経験し習得できるため、術後管理のスキルアップに繋がるはずです。

問い合わせ先

心臓血管外科

担当者：皆川 正仁

（胸部心臓血管外科学講座 教授）

tel 0172-39-5074 fax 0172-37-8340

e-mail masahito@hirosaki-u.ac.jp

消化器外科，乳腺外科，甲状腺外科

さまざまな領域の外科医療を研修することが可能です。より多くの症例を経験し有能な外科専門医へ成長する事を期待しています。

問い合わせ先

消化器外科

担当者：三浦 卓也（臨床研究推進センター 准教授）

tel 0172-39-5079

e-mail tmiura@hirosaki-u.ac.jp

小児外科

小児外科の症例を多く経験することができます。また小児外科スキルアップのためには成人外科の研修は不可欠であり、小児外科を志望されている先生方へ弘前大学外科専門医研修プログラムはお勧めです。

問い合わせ先

小児外科

担当者：平林 健（小児外科 准教授，診療教授）

tel 0172-39-5079

e-mail thirabay@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学整形外科専門研修プログラム

プログラムの特徴

あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、幅広い基本的な臨床能力が身に付いた整形外科専門医を目指した研修プログラムです。

弘前大学医学部附属病院（基幹施設）および連携施設群（24病院）において研修を行います。

機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年9ヶ月】

整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヶ月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。専門研修最終年度の12月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。

全ての専攻医は大学病院での研修からスタートします。大学院コース（専攻医1-8）は2年目後期または3年目から大学で臨床研修しながら研究を行います。臨床研修コース（専攻医9-12）は1年目を大学で研修し、その後2年9ヶ月間は連携施設で研修します。

研修病院別ローテーション表（専攻医12名の具体例）

病院名	1年目	2年目	3年目	4年目
1 弘前大学医学部附属病院	専攻医1-12	専攻医9-12	専攻医1-6	専攻医1-8
2 市立函館病院	専攻医1			専攻医10
3 函館渡辺病院		専攻医11		
4 むつ総合病院	専攻医2		専攻医9	
5 青森市民病院	専攻医3	専攻医2		専攻医12
6 あすなろ療育福祉センター		専攻医1	専攻医9	
7 青森県立中央病院	専攻医4	専攻医9		
8 野辺地病院		専攻医4		
9 三沢市立三沢病院		専攻医5		
10 十和田市立中央病院		専攻医6	専攻医12	
11 八戸市立市民病院	専攻医5	専攻医10		専攻医11
12 青森労災病院	専攻医6			
13 はまなす医療療育センター		専攻医12	専攻医10	
14 国立病院機構弘前総合医療センター			専攻医11	専攻医11
15 大館市立総合病院	専攻医7	専攻医7		
16 つがる総合病院	専攻医8	専攻医8		
17 健生病院			専攻医7	
18 国保黒石病院		専攻医3		
19 弘前記念病院			専攻医8	専攻医9
20 JCHO秋田病院		専攻医11		専攻医12
21 五戸総合病院				
22 鯉ヶ沢病院			専攻医12	
23 三戸中央病院				
24 高岡整志会病院			専攻医10	専攻医10
25 おおさかグローバル整形外科病院				

専門研修連携施設

1 市立函館病院	13 国立病院機構弘前総合医療センター
2 函館渡辺病院	14 大館市立総合病院
3 むつ総合病院	15 つがる総合病院
4 青森市民病院	16 健生病院
5 あすなろ療育福祉センター	17 国保黒石病院
6 青森県立中央病院	18 弘前記念病院
7 野辺地病院	19 JCHO秋田病院
8 三沢市立三沢病院	20 五戸総合病院
9 十和田市立中央病院	21 鯉ヶ沢病院
10 八戸市立市民病院	22 三戸中央病院
11 青森労災病院	23 高岡整志会病院
12 はまなす医療療育センター	24 おおさかグローバル整形外科病院

サブスペシャリティ領域への展望

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、脊椎脊髄外科専門医、リウマチ専門医、手外科専門医、スポーツ認定医などがあります。本プログラムの弘前大学医学部附属病院および連携施設にはこれらサブスペシャリティ領域の研修施設が含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

大学院・留学について

研修病院別ローテーション表でもお示した通り、大学院コースがあり、研究と並行して臨床研修の継続が可能です。博士号を取得し当教室の優秀論文賞を受賞した場合、本人の希望があれば海外又は国内留学の機会も与えています。

指導医からのメッセージ

運動器疾患を扱う整形外科は、どの病院でも外来・入院患者数、手術件数など各科のなかでも数が多く、社会的需要の高い科です。今後も高齢化社会への加速、スポーツ障害や外傷の増加など、将来にわたって整形外科の需要はますます高まると考えられます。整形外科は患者さんの生涯を通じて豊かで安心できる生活をサポートするための重要な診療科です。多くの研修医の皆さんが、整形外科に興味を持ち、当教室と一緒に勉強して下さることを心から望んでいます。

問い合わせ先

整形外科

担当者：熊谷 玄太郎（整形外科科学講座 准教授）

tel 0172-39-5083 fax 0172-36-3826

e-mail gen722@hirosaki-u.ac.jp

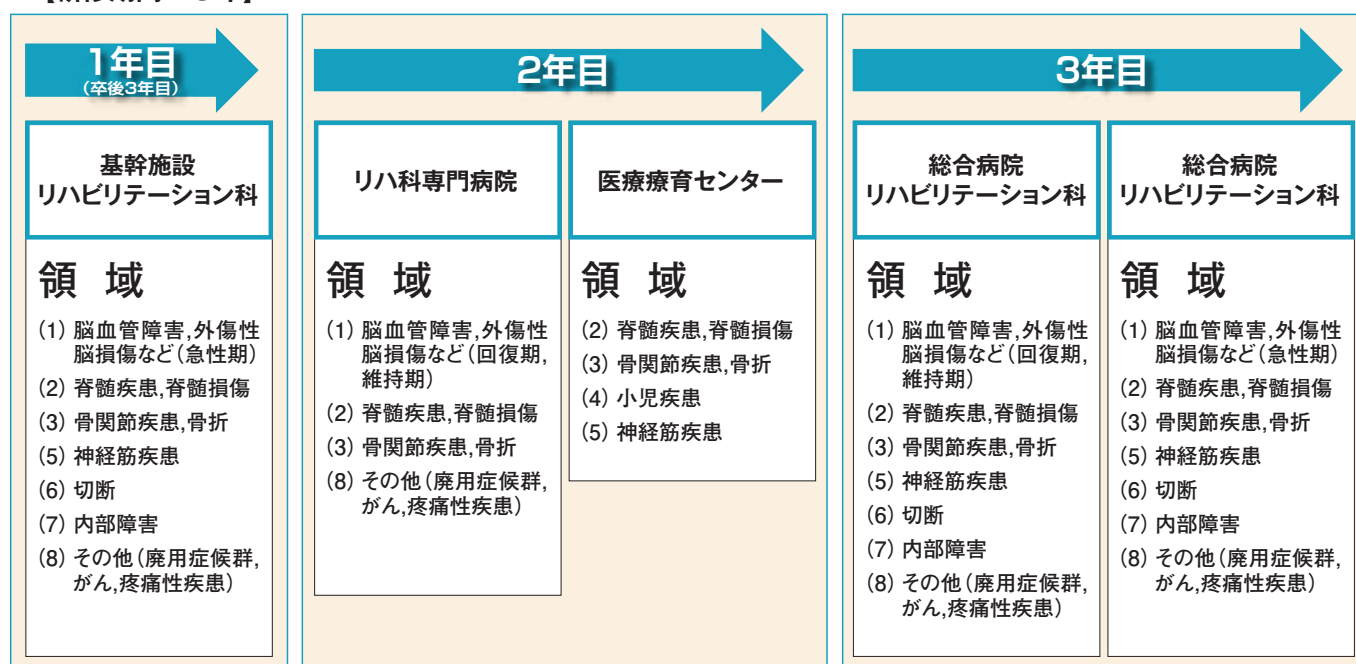
青森県リハビリテーション科専門研修プログラム

プログラムの特徴

- 1 大学病院、総合病院、リハ専門病院、医療療育センターとバランスの取れた構成であり、幅広い領域の疾患において急性期、回復期、維持期の症例を経験することができます。
- 2 基幹施設である弘前大学医学部附属病院は医学部医学科に併設された医学教育・研究機関でもあり、基礎・臨床研究の指導を受けることが可能です。
- 3 大都市病院での研修に比較して専攻医数が少数のため、一人あたりの受け持ち患者数が多く、経験できる評価、検査、治療なども多岐に渡り、幅広い臨床経験が得られます。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】



★指定する基本領域(内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科)の専門医資格を有する医師では、最短2年間の研修カリキュラム修了にてリハ科専門医の受験資格を取得できます。
詳細につきましてはお問合せ先までお尋ねください。

専門研修連携施設

1	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
2	青森市民病院
3	健生病院
4	はまなす医療療育センター

サブスペシャリティ領域への展望

リハビリテーション科専門医を取得した医師は、リハビリテーション科専攻医としての研修期間以後に subspecialty 領域の小児神経専門医、感染症専門医など(他は未確定)のいずれかを取得できる可能性があります。

大学院・留学について

大学院進学希望者には、専門研修と並行してリハビリテーション領域の基礎・臨床研究を開始することを奨めます。また、専門医を取得した後に留学を希望する医師には、その機会を設けます。

指導医からのメッセージ

青森県リハビリテーション科専門研修プログラムは青森県内で唯一のリハビリテーション科専門研修プログラムです。地方の立地を生かした豊富な症例経験により、専攻医の皆さんの多様な希望にこたえられるプログラムを提供します。

問い合わせ先

リハビリテーション科
 担当者：津田 英一(リハビリテーション医学講座 教授)
 tel/fax 0172-39-5473
 e-mail eiichi@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学医学部附属病院皮膚科専門研修プログラム

プログラムの特徴

本プログラムは弘前大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、青森県立中央病院皮膚科、八戸市立市民病院皮膚科、函館渡辺病院皮膚科、むつ総合病院皮膚科、国立病院機構弘前総合医療センター皮膚科を研修連携施設として研修施設群を統括する研修プログラムです。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：5年】

本プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成します。幅広い知識と経験を身につけるため、いずれのコースにおいても研修連携施設での研修を少なくとも1年間行う必要があります。ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあります。さらに、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性があります。

コース	1年目 (卒後3年目)	2年目	3年目	4年目	5年目
a	基幹	基幹	1年連携施設、2年基幹施設		
b	基幹	基幹	2年連携施設、1年基幹施設		
c	大学院	大学院	1年連携施設、2年大学院（基幹）		
d	大学院	大学院	大学院	大学院	連携

- a：研修基幹施設を中心に研修するコース。大学で後輩の指導も行うことにより自らの不足している部分を発見し補うコース。
 b：連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
 c：専門医取得と博士号取得を同時に目指すコース。連携施設での研修もあるため、臨床と研究の両方を学ぶことができるコース。
 d：研修基幹施設で臨床を学びながら、博士号取得のための研究をする基本的なコース。

専門研修連携施設

1	青森県立中央病院	4	むつ総合病院
2	八戸市立市民病院	5	国立病院機構弘前総合医療センター
3	函館渡辺病院		

サブスペシャリティ領域への展望

皮膚科専門医取得後は、興味のある領域の専門外来を担当するなどして、サブスペシャリティ領域の診療経験を積むことができます。その延長として、皮膚科学会認定の皮膚悪性腫瘍指導専門医や美容皮膚科・レーザー指導専門医などの資格を取得することができます。ほかにも日本アレルギー学会専門医、臨床遺伝専門医など、皮膚科学会以外の専門医も取得した先生もいます。

大学院・留学について

【大学院について】

研修基幹施設の大学院における研究期間は研修期間として含みます。ただし、大学院生として皮膚科以外の臨床講座あるいは基礎系講座あるいは研究所等にて皮膚科領域に関連する研究に従事する場合は、2年間を限度に研修期間と認めます。2年間を越える場合は研修期間延長になります。

【留学について】

博士号取得後は、研究者としての経験と実績を積むため、海外留学することもできます。

過去の主な留学先：Thomas Jefferson University (Philadelphia, USA), University of Washington (Seattle, USA), University of Freiburg (Freiburg, Germany)

留学により研修を休止している期間は研修期間に含みません。これにより、5年の研修期間を満たさない場合、研修期間を延長することになります。

指導医からのメッセージ

弘大皮膚科は、60年以上の伝統をもつ教室で、200名を超えるレベルの高い皮膚科医を育てて来ました。地域に根ざし青森県の医療を支えると同時に、全世界に優れた研究を発信し、国際的にも高い評価を得ています。

原則として5年間のプログラムを研修することにより、将来、皮膚科専門医として皮膚病変を有する患者を診療する際に、必要十分な基礎的知識と治療技術を習得することができます。きわめて実践的であり、かつ、無理のない研修プログラムの構成となっています。そのうえ、やる気のある研修者であれば、相談に応じて、皮膚外科、皮膚病理、大学院に進学して研究と、自分の興味のある領域にも特化できる自由度の高いプログラムとなっています。将来は、大学の教員、総合病院の医長、留学などさまざまなキャリアを築くことができます。

問い合わせ先

皮膚科

担当者：六戸 大樹（皮膚科学講座 准教授）

tel 0172-39-5087 fax 0172-37-6060

e-mail derma@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学泌尿器科専門研修プログラム

プログラムの特徴

弘前大学泌尿器科専門研修プログラムは基幹施設である弘前大学附属病院と19の連携病院で構成されます。泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることができるよう配慮しました。本プログラムでは、リサーチマインドを持つ有能な泌尿器科医を育成するため、研修1年目から4年目までどの年次からも大学院への進学が可能な大学院進学コースを設置しています。また、より高い臨床実施能力の獲得を目指す臨床修練コース、弘前大学医学部地域枠出身で地域医療での義務年限を前提とした地域医療優先コースも設置しています。

さらに、小児泌尿器科研修を充実させるために、宮城県立こども病院が研修連携施設に加わっています。弘前大学附属病院は腎移植、ミニマム創手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術の症例が豊富です。ロボット支援手術の症例見学施設になっていますので、専門医資格取得と同時にライセンス取得可能な研修内容になっています。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：4年】

泌尿器科専門医は4年間の研修で育成されます。4年間のうち基本的には研修基幹施設である大学病院で2年間の研修を行い、それ以外の2年を研修連携施設で研修することになります。弘前大学泌尿器科研修プログラムでは臨床修練に重点を置く臨床修練コース、希望があれば研修1年目から大学院に進学可能な大学院進学コース、青森県からの奨学金貸与を受け地域医療での義務年限を前提とした地域医療コースの中から選択することが可能です。

研修先及び研修内容

1年目 (卒後3年目)	弘前大学附属病院（基幹施設）での研修 大学病院で経験した症例に関して症例報告を行う 基本的知識及び技能の修得 大学院（社会人枠）入学の場合は大学院講義の受講により幅広い医学的知識を習得する
2年目	連携病院での研修 基本的知識及び技能の修得 病院の特色に合わせた専門的疾患に対する理解
3年目	連携病院での研修 基本的知識及び技能の修得 地域医療の現状に関して理解を深める 臨床研究、基礎的研究、学会発表、論文発表を通してリサーチマインドを涵養する
4年目	弘前大学附属病院（基幹施設）での研修 より高度な専門知識、技能の修得 臨床研究、基礎的研究、学会発表、論文発表を通してリサーチマインドを涵養する

専門研修連携施設

1 青森県立中央病院	11 八戸平和病院
2 青森市民病院	12 十和田市立中央病院
3 鷹揚郷青森病院	13 八戸市立市民病院
4 むつ総合病院	14 八戸赤十字病院
5 鷹揚郷弘前病院	15 宮城県立こども病院
6 国立病院機構弘前総合医療センター	16 JCHO秋田病院
7 市立函館病院	17 上尾中央総合病院
8 つがる総合病院	18 三沢市立三沢病院
9 青森労災病院	19 東北医科薬科大学病院
10 大館市立総合病院	

サブスペシャリティ領域への展望

泌尿器科専門医資格取得後は、腹腔鏡技術認定医、ロボット支援手術ライセンス、透析専門医、腎移植専門医、がん治療認定医などさらに専門性の高い認定医、専門医資格の取得を目指します。

大学院・留学について

本プログラムでは、研修1年目から4年目までどの年次からも大学院への進学が可能な大学院進学コースを設置しています。

学位取得後、Sanford-Burnham研究所（アメリカ、カリフォルニア州サンディエゴ）、UC San Francisco、UC San Diego、Queensland University（オーストラリア、ブリスベン）University of Bern（スイス）などへの海外留学コースが設定されています。

指導医からのメッセージ

弘前大学泌尿器科専門研修プログラムでは、新生児から高齢者まで、外科的アプローチを中心に内科的管理まで、common diseaseから高度医療までをカバーする幅広い臨床能力を持ち、地域医療に貢献し、かつ旺盛なリサーチマインドを持つバランスの取れた良医を育てます。

医師である以前に、良識のある社会人であることを重視します。Humanityに富む医師養成のため、人間としての人格形成にも気を配ります。常にGlobal trendを意識し、世界の舞台でも活躍できる泌尿器科医を養成するプログラムです。

問い合わせ先

泌尿器科

担当者：畠山 真吾（泌尿器科学講座 教授）

tel 0172-39-5091 fax 0172-39-5092

e-mail urology2@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学眼科専門研修プログラム

プログラムの特徴

眼科専門医として必要十分な技能と知識を4年間の研修期間で習得できます。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：4年】

研修先及び研修内容	
1年目 (卒後3年目) ～ 2年目	最初の2年間のうち、少なくとも1年間は弘前大学医学部附属病院眼科での初期専門研修として、特定機能病院レベルでの眼科研修を行います。その後の研修期間で大学病院や適宜、状況に応じて専門研修施設群に属する医療機関にて、眼科の基本的な診療技能の習得に加えて、白内障手術を中心とした眼科顕微鏡手術および外来レーザー治療の基本手技の習熟を目指します。
3年目 ～ 4年目	後半の2年間では白内障手術に加えて、斜視、網膜剥離、緑内障などのさらに高度な手術の執刀を目指した手術研修を進めるほか、外来診療に必要な各種検査手技および治療手技の習熟を目指します。また、研修期間内に自分が担当した症例について適宜症例報告を各種の学会や研究会などで行い、学術的な理解を深めつつ、論文として公表していただきます。

専門研修連携施設

1	青森県立中央病院	7	国保黒石病院
2	青森市民病院	8	JCHO 秋田病院
3	八戸市立市民病院	9	つがる総合病院
4	国立病院機構弘前総合医療センター	10	江口眼科病院
5	大館市立総合病院	11	十和田市立中央病院
6	青森労災病院		

サブスペシャリティ領域への展望

弘前大学医学部附属病院眼科外来では各種の専門外来を設置して、疾患群ごとにきめの細かい診療が行えるように配慮しています。これらの専門外来をローテーションすることにより、斜視弱視、網膜硝子体、ぶどう膜炎、角膜などのサブスペシャリティ領域がカバーされます。また、一般再来には結膜疾患、神経眼科、腫瘍性疾患などの症例の診療もあり、眼科サブスペシャリティ領域のほぼすべてについて万遍なく経験することができます。各専門研修施設においてもいずれも地域の中核病院として、各種の症例に恵まれておりますので、本人の学習意欲次第で様々な症例について発展的に理解する機会を得ることができます。

大学院・留学について

専門研修を続けながら大学院へ入学して研究も並行して行うことも可能です。大学病院や各専門研修施設の常勤医としての身分のまま、大学院へは社会人入学として入学することが可能です。その場合は通常の臨床研修を行いながら、勤務時間外の時間を使って研究を進めることになります。時間的にはややきつと感じられることもあるかもしれませんが、土曜日や休日などの時間帯を効果的に用いることで研究が遂行できるように指導いたします。研究内容を纏めて国際的な学術雑誌へ投稿できることを目標とします。

学位取得後または取得前に希望により海外留学の機会もあり、研究面で自身の見識や経験を深める機会を得ることになります。

指導医からのメッセージ

「鉄は熱いうちに叩け」と言われます。卒後研修を修了したこの時期に専門領域の基本から徹底的に勉強することは生涯に亘って自分の臨床医としての基盤となります。最初にこのような基盤を作ると、後でいかようにも応用することができるようになり、臨床医としての幅が広がることと思います。

問い合わせ先

眼科

担当者：上野 真治（眼科学講座 教授）

tel 0172-39-5095 fax 0172-37-5735

e-mail uenos@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラム

プログラムの特徴

耳鼻咽喉科頭頸部外科が扱う疾患は、新生児からお年寄りまでを対象に、領域も内科系の検査診断学から外科系の手術手技まで多岐に渡ります。

本プログラムでは、このように幅広い領域に対応して各専門分野の専門スタッフから直接研修指導を受けて、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患に対する診断と治療に関する専門的な知識と技術の習得を目指します。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：4年】

研修先及び研修内容 AコースまたはBコース	
1年目 (卒後3年目)	基幹施設（弘前大学医学部附属病院） ・基本的臨床能力の習得
2年目	専門研修連携施設（AグループまたはBグループ） Aグループ：青森県立中央病院、国立病院機構弘前総合医療センター、八戸市立市民病院 Bグループ：青森市民病院、むつ総合病院、大館市立総合病院 ・耳鼻咽喉科の疾患に対する診断及び治療の実地経験を積む。 ・様々な手術手技や救急対応を身につける。
3年目	基幹施設（弘前大学医学部附属病院）または、専門研修連携施設（AグループまたはBグループ）および関連施設 ・術者として対応できる領域の拡充をはかる。
4年目	基幹施設（弘前大学医学部附属病院） ・中核病院で得た技術・知識に加えさらに専門性を高める研修を行う。 ・学会での発表や論文執筆も積極的に行う。

研修先及び研修内容 Cコース	
1年目 (卒後3年目)	地域大学附属病院（大阪公立大学医学部附属病院） ・基本的臨床能力の習得
2-3年目	基幹施設（弘前大学医学部附属病院） 専門研修連携施設（AグループまたはBグループ） Aグループ：青森県立中央病院、国立病院機構弘前総合医療センター、八戸市立市民病院 Bグループ：青森市民病院、むつ総合病院、大館市立総合病院 および関連施設 ・耳鼻咽喉科の疾患に対する診断及び治療の実地経験を積む。 ・積極的に学会へ参加する。 ・様々な手術手技や救急対応を身につける。
4年目	地域大学附属病院（大阪公立大学医学部附属病院） ・2-3年目で得た技術・知識に加えさらに専門領域の研修を行う。 ・全国学会での発表や論文執筆を行う。

4年間の研修にて予定された全カリキュラムを修了後に、専門医試験の受験資格が得られます。

専門研修連携施設

【Aグループ】 地域の中核病院	1	青森県立中央病院
	2	国立病院機構弘前総合医療センター
	3	八戸市立市民病院
【Bグループ】 地域医療を担う病院	4	青森市民病院
	5	むつ総合病院
	6	大館市立総合病院
【Cグループ】 地域大学附属病院	7	大阪公立大学医学部附属病院
	8	つがる総合病院
専門研修関連施設	9	国保黒石病院

サブスペシャリティ領域への展望

耳鼻咽喉科専門医を取得後に、弘前大学医学部附属病院で一定期間の研修を行い、定められた症例数を経験することにより、日本アレルギー学会アレルギー専門医および日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医の受験資格が得られます。

大学院・留学について

大学院に関しては専門研修と並行して大学院への進学が可能です。専門研修を行いながら、研究時間を設けて大学院学位取得を目指します。社会人大学院制度を利用すれば、経済的にも負担が少なく研修することができます。

また、希望があれば国内・外を問わず留学も可能です。

指導医からのメッセージ

耳鼻咽喉科の扱う領域は耳科・鼻科・頭頸部外科など多岐に渡っています。本プログラムにてこの広い範囲を余すところなく研修してください。研修修了後、専門医資格を取得していただきたいと思います。その後は幅広い選択肢の中からそれぞれの専門領域に進み、我々スタッフとともにスペシャリストを目指していきましょう。

問い合わせ先

耳鼻咽喉科頭頸部外科

担当者：鈴木 真輔（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授）

tel 0172-39-5099 fax 0172-39-5100

e-mail orl@hirosaki-u.ac.jp

青森放射線科専門研修プログラム

プログラムの特徴

- 1 放射線診断学、核医学とPET、IVR（interventional Radiology）、放射線腫瘍学の4分野の必須知識を習得し、放射線を用いた全身の診断と治療ができる臨床医を養成します。
- 2 放射線科専門医取得に必要な技術と知識の習得を保証します。
- 3 より高度な専門医・指導医・認定医資格取得を目標とした研修を行います。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

研修先及び研修内容	
1年目 (卒後3年目) ～ 3年目	日本医学放射線学会が定める要綱に沿って、3年間で放射線科専門医資格が得られるための教育と臨床経験の研修を行います。

専門研修連携施設

1	青森県立中央病院
2	青森労災病院
3	八戸市立市民病院
4	国立病院機構弘前総合医療センター
5	大阪公立大学医学部附属病院
6	三沢市立三沢病院
7	むつ総合病院
8	函館五稜郭病院

サブスペシャリティ領域への展望

放射線科専門医取得後は、放射線診断と放射線治療に分かれ、より高度な専門医・認定医・指導医の資格を目指して各自が希望する分野の知識と技術の研修を2年間行います。

大学院・留学について

専門研修と並行して大学院履修コースがあります。研究の進捗状況に応じて研究専念期間を設けます。博士号取得後、希望者には国内・海外留学が可能です。

指導医からのメッセージ

放射線科学は、画像診断学を始め、PET 核医学、IVR、放射線治療など、様々な分野があり、更に中枢神経、頭頸部、胸部、腹部、骨盤部、骨軟部等、守備範囲が非常に広いのが特徴です。専門研修では専門医の取得を目指して、診断と治療を幅広く研修することが望まれますが、大学病院は症例数も多く、最新の医療機器を駆使した診断と治療を行っておりますので、研修の面においては最良の場であると確信しております。また、大学院のコースも用意しており、臨床を学びながら、学位を取得することも可能です。専門医取得後は、更にその上の認定医、指導医を目指して、研修されることを希望します。

問い合わせ先

放射線治療科，放射線診断科
 担当者：青木 昌彦（放射線腫瘍学講座 教授）
 tel 0172-39-5103 fax 0172-33-5627
 e-mail radio-jm@hirosaki-u.ac.jp
 HP <https://hirosaki-u-radio.com>

弘前大学産婦人科専門研修プログラム

プログラムの特徴

- 1 弘前大学医学部附属病院では、産科・婦人科・生殖医療の高度医療を中心に研修をします。
- 2 連携施設には、得意とする産婦人科診療内容があり、生殖医療、婦人科腫瘍（類腫瘍を含む）、周産期、女性のヘルスケアの4領域を万遍なく研修する事が可能です。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

産婦人科研修プログラムは多彩に準備されている。ここではプログラムの1例を示す。

研修先及び研修内容	
1年目 (卒後3年目)	基幹施設（弘前大学医学部附属病院）1年 産婦人科の基礎を習得する。 ハイリスク妊娠・分娩、婦人科悪性腫瘍の経験、腹腔鏡検査・手術助手、生殖補助技術の経験
2年目	連携施設1年 産婦人科一般医療を経験する。 婦人科腫瘍の診断・治療、一般生殖医療、正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理、腹腔鏡検査・手術
3年目	連携施設1年 産婦人科応用の時期とする。 ハイリスク妊娠・分娩、悪性腫瘍の診断・治療、腹腔鏡検査・手術術者、生殖補助技術の適応と実践

大学院・留学について

大学院入学は本人の希望を優先して、産婦人科専門医取得前後いずれの時期からでも入学できます。留学は博士号取得後に研究分野のさらなる発展を目指して希望できます。

指導医からのメッセージ

専攻医一人当たりの症例数が多いことが本プログラムの特徴です。高度医療と地域医療を平行して学ぶことができ、地域のニーズに合わせた研修が可能です。専門医取得後は豊富な症例数を活かしてサブスペシャリティを最短で取得可能です。恵まれた環境にある青森県で産婦人科専攻医を目指して一緒に頑張りましょう。

問い合わせ先

産科婦人科
担当者：松村 由紀子（産科婦人科 助教）
tel 0172-39-5107 fax 0172-37-6842
e-mail y-matsu@hirosaki-u.ac.jp

専門研修連携施設

1	青森県立中央病院	6	つがる総合病院
2	国立病院機構弘前総合医療センター	7	むつ総合病院
3	八戸市立市民病院	8	健生病院
4	大館市立総合病院	9	十和田市立中央病院
5	青森市民病院	10	三沢市立三沢病院

サブスペシャリティ領域への展望

専門医取得後には、「Subspecialty 産婦人科医養成プログラム」として、産婦人科4領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示します。

弘前大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

プログラムの特徴

目指せ全身管理のスペシャリスト！

- 1 手術室では全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、各種神経ブロックの習得
- 2 ICUでは重症患者の全身状態改善に最大限の貢献
- 3 ペインクリニック、緩和ケア部門では患者の苦痛除去に尽力

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：4年】

研修先及び研修内容		
1年度	本院 青森県立中央病院 八戸市立市民病院 青森市民病院	つがる総合病院 むつ総合病院 国立病院機構弘前総合医療センター 十和田市立中央病院
2年度	大館市立総合病院	琉球大学病院
3年度	本院（ペイン、ICUも可） 青森県立中央病院 八戸市立市民病院 青森市民病院	つがる総合病院 むつ総合病院 国立病院機構弘前総合医療センター 十和田市立中央病院
4年度	大館市立総合病院	琉球大学病院

指導医からのメッセージ

麻酔臨床、集中治療や救急蘇生の現場では分秒を争う的確な判断を下すことが要求されます。そのためには解剖学、生理学、薬理学等の基礎医学から内科診断学、麻酔科学、集中治療医学、疼痛生理病理学に至る広範な知識を基に、患者を診る目を身につけなくてはなりません。また、外来・病棟では急性疼痛、慢性疼痛、緩和医療とも全人的な診療が必要です。このような理由から当科では基本的にあらゆる医療行為を初期の段階では研修医単独ではやらせていません。指導すべき資格を有する医師と共に1対1で実践し、習得してゆく方式を採用しています。指導体制は全国的に見ても遜色ありません。

問い合わせ先

麻酔科

担当者：斎藤 淳一（麻酔科学講座 教授）

tel 0172-39-5113 fax 0172-39-5112

e-mail masuika@hirosaki-u.ac.jp

専門研修連携施設

1	青森県立中央病院	8	十和田市立中央病院
2	八戸市立市民病院	9	琉球大学病院
3	青森市民病院	10	三沢市立三沢病院
4	大館市立総合病院	11	弘前記念病院
5	つがる総合病院	12	青森厚生病院
6	むつ総合病院	13	健生病院
7	国立病院機構弘前総合医療センター		

サブスペシャリティ領域への展望

麻酔科専門医取得後、速やかにペインクリニック専門医、集中治療専門医を取得できるよう配慮しています。

大学院・留学について

社会人大学院生として臨床・研究に励む若手を応援しています。世界各地に留学先があり、積極的に希望してほしいと考えています。

スタッフ紹介

統括責任者

斎藤 淳一（麻酔科学講座 教授）

【資格名】日本麻酔科学会指導医／日本集中治療医学会専門医／日本心臓血管麻酔学会専門医／日本区域麻酔学会指導医

【一言】臨床も研究も一生懸命取り組める教室を目指しています。

研修指導医

櫛方 哲也（麻酔科学講座 准教授、診療教授）

【資格名】日本麻酔科学会指導医／日本集中治療医学会専門医／臨床修練指導医

【一言】「麻酔と睡眠」について研究しています。

研修指導医

北山 眞任（手術部 准教授）

【資格名】日本麻酔科学会指導医／臨床修練指導医／日本区域麻酔学会指導医

【一言】超音波ガイド神経ブロックの普及にがんばっています。

研修指導医

橋場 英二（集中治療部 准教授）

【資格名】日本麻酔科学会指導医／日本集中治療医学会専門医／日本周術期経食道心エコー認定委員会認定医／日本呼吸療法医学会専門医／臨床修練指導医

【一言】目の前の重症患者の治療を通して、一緒に勉強・成長しよう。

弘前大学医学部脳神経外科専門研修プログラム

プログラムの特徴

- ① 初期研修の段階から、脳神経外科の一般病棟管理や急患対応だけでなく、開頭手術、脳血管内治療の術者として積極的に診療に参加できる。
- ② 10年で一般的な開頭手術、顕微鏡下手術、脳血管内治療、神経内視鏡手術の手技を習得し、心身ともに自立した脳神経外科医を育成できる。
- ③ 希望により、脳神経外科のサブスペシャリティ領域（脳血管内治療 機能的脳神経外科 小児脳神経外科）の習得のために国内有数のhigh volume centerで効率よく学ぶ機会が得られる。国内・海外留学も積極的に勧めている。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：4年】

日本専門医機構の要綱に沿って4年間の研修を行い脳神経外科専門医の取得を目指す。学位取得、脳血管内治療専門医の取得についても考慮し、学位申請時期や受験時期は個人の希望を優先して症例経験の蓄積によって決定する。

研修先及び研修内容

1年目 (卒業3年目)	大学病院で研修し、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷の広い範囲の画像診断力、周術期管理の技術を身に着ける。穿頭術、シャント手術、基本的な開頭・閉頭手術の技術に習熟する。脳血管撮影、基本的な血栓回収療法、血管内治療の技術を学ぶ。脳血管内治療専門医としての臨床活動を重点的に希望する者は、直達手術よりも脳血管撮影や血管内治療症例の経験を積むことで優先的に脳血管治療手技を学ぶ。
2年目	大学病院で研修し、画像診断や臨床経過から治療方針の決定までプレゼンテーションできる能力を養う。複雑な開頭手術の技術を習熟し、脳内血腫除去術やsylvian fissureの開放の基本的な顕微鏡下手術を学ぶ。基本的な血栓回収療法に習熟し、頸動脈ステント留置や脳動脈瘤コイル塞栓術の技術を学ぶ。症例報告を中心に学会発表、論文作成を行い、臨床研究のデザインも学ぶ。血管内治療の専攻を希望する者は、国内のhigh volume centerへの留学を考慮する。
3年目	脳神経外科専門医受験のための準備を行い、学位取得を目的とした研究活動に従事する。
4年目	大学病院または専門研修連携施設や関連施設をローテーションし、脳神経外科臨床の第一線で診断、治療策定、開頭手術、基本的な顕微鏡下手術、血栓回収療法の実践を広く実践的に学ぶ。同年に学位取得を目指す者は、研究結果を学位論文にまとめ学位申請を行う。
5年目	大学病院または専門研修連携施設や関連施設をローテーションし、開頭手術、基本的な顕微鏡下手術（開頭血腫除去、脳動脈瘤クリッピング）、血栓回収療法、コイル塞栓術やステント留置などの基本的な脳血管内治療の実践を広く実践的に学ぶ。脳神経外科専門医試験を受験する。学位取得と脳神経外科専門医取得の時期については、研究の進捗や症例経験に基づき個人の希望を優先的に勘案する。脳血管内治療専門医の資格取得についても症例経験に応じて受験時期を検討する。

専門研修連携施設・関連施設

1	国立病院機構弘前総合医療センター	8	むつ総合病院★
2	つがる総合病院	9	国立病院機構仙台医療センター★
3	青森市民病院	10	広南病院★
4	十和田市立中央病院★	11	国立病院機構宮城病院★
5	青森県立中央病院★	12	宮城県立こども病院★
6	八戸市立市民病院★	13	仙台東脳神経外科病院★
7	国保黒石病院★	14	聖マリアンナ医科大学病院★

★については関連施設

サブスペシャリティ領域への展望

脳神経外科は、脳血管障害や脳腫瘍、頭部外傷だけでなく、てんかんやパーキンソン病の外科治療などの機能的脳神経外科、先天奇形などの小児脳神経外科など、多岐に渡っています。治療のアプローチについても、脳血管内治療、神経内視鏡など、近年の発展が著しい分野も含んでいます。

これらのサブスペシャリティ領域の診療経験は脳神経外科専門医取得においても必要とされています。本研修プログラムでは、当院での経験に止まらず、広南病院を初めとした国内屈指のhigh volume centerへの見学や国内留学を通じて十分な症例経験が積めるように連携をとっています。

大学院・留学について

当講座では希望に応じて大学院への入学も奨励しています。また、世界的視野を養うためにアメリカ、カナダを中心に海外留学も積極的に斡旋しています。希望によりいかなる留学先も開拓できます。留学中の身分は弘前大学職員として収入を保証します。国内留学も推奨しています。

指導医からのメッセージ

脳に興味のある外科志望の方、随時見学可能です。お待ちしております。

問い合わせ先

脳神経外科

担当者：斉藤 敦志（脳神経外科 教授）

tel 0172-39-5115 fax 0172-39-5116

e-mail nougeka@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学形成外科専門研修プログラム

プログラムの特徴

- ① 青森県内唯一の形成外科専門研修施設である本院で、多くの症例を幅広く経験することが可能です。
- ② 形成外科専門医取得に必要な知識・技術の修得はもちろん、形成外科医として患者の精神的支えとなれるような豊かな人間性の育成を目標とします。
- ③ 研修中に取得可能な熱傷専門医をはじめ、様々なサブスペシャリティ取得のための基礎知識と技術を修得します。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：4年】

研修先及び研修内容	
1～2年目	形成外科の概念や基本手技を修得し、小手術の術者となります。 - 形成外科における診察法・診療録記載法 - 手術前後の管理、創処置、ギプスやスプリントによる固定法 - 形成外科における救急処置 - 手術助手、外来助手 - 形成外科的縫合法（皮膚採取部位などの縫合） - 簡単な手術手技の習得（分層、全層の皮膚採取を含む） - 後半は皮膚腫瘍切除術、軟部組織損傷などの術者
3～4年目	病棟管理、手術を中心として主たる担当医、術者となります。また地域医療研修施設にて地域医療を学びます。 - 患者への説明（インフォームドコンセントの取得）、入院管理 - 植皮術、皮弁作成術、瘢痕拘縮形成術などの術者 - マイクロサージャリーの手技修練 - 高度手術における部分的術者 - 後半は唇裂、口蓋裂、顎裂、耳介変形などの先天異常の術者 - 更に筋皮弁、顔面組織再建などの術者 - 地域医療研修施設での地域医療研修

専門研修連携施設

1	札幌医科大学附属病院
2	国立病院機構弘前総合医療センター
3	弘愛会病院
4	岩手医科大学附属病院
5	愛媛大学医学部附属病院
6	八戸市立市民病院

地域医療研修施設

1	国立病院機構弘前総合医療センター
2	青森労災病院
3	弘愛会病院
4	八戸市立市民病院

サブスペシャリティ領域への展望

形成外科のサブスペシャリティとしては熱傷専門医、創傷外科専門医、皮膚腫瘍外科分野指導医、小児形成外科分野指導医、再建・マイクロサージャリー分野指導医、頭蓋顎顔面外科専門医、美容外科専門医、手外科専門医などがあり、将来早期に指導医となるためにはこれらの中から2つのサブスペシャリティ専門医を取得することが必須となっています。このためこれらのサブスペシャリティ専門医取得を視野において、本研修プログラムにおいてその基盤となる知識と技術を学びます。

大学院・留学について

研修プログラム中に大学院博士課程を受講し医学博士を取得することが可能です。また希望に応じて国内外の留学をサポートします。

指導医からのメッセージ

形成外科は体表面の先天的、後天的変形、欠損を修復し、機能的、形態的回復をめざす外科系の一分野です。このため頭からつま先まで体表面のほとんどを扱いますし、対象患者さんも新生児から高齢者まで幅広いのが特徴です。また形成外科では腫瘍切除後や外傷後の組織欠損を修復する「再建」を多くおこなっています。この点が他の診療科と大きく違う特徴で有り「創造する外科」と言っても良いでしょう。再建にあたっては形成外科的縫合法、植皮術、皮弁作成術、そしてマイクロサージャリーを用いた遊離皮弁術など様々なテクニックを駆使して出来るだけ元通りに近い状態を再建します。この際に重要なことは個々の症例に合わせたオーダーメイドの治療を行うことであり、そのためには基本的な技術に加えてアイデアも非常に重要です。ぜひ形成外科専門研修で様々な知識、技術、考え方を身につけるとともに、アイデアを出し合いながら新しい治療法を一緒に創造していきましょう。

問い合わせ先

形成外科

担当者：漆館 聡志（形成外科学講座 教授）

tel 0172-39-5119 fax 0172-35-9220

e-mail urushi@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム

プログラムの特徴

① ERから三次救急まで経験

ER診療から重症傷病者の初期診療まで、救急で扱う幅広い診療に加え一般的な総合診療も経験できます。また、多くの他科研修も用意しており、一般外科の研修との組み合わせでAcute Care Surgery、循環器内科との組み合わせで心血管インターベンションなどのスペシャリティを磨くこともできます。

② ドクターヘリをはじめとした病院前診療

生命の危機に瀕する重症傷病者を、最初に診療するのが救急医です。このプログラムでは、ドクターカーやドクターヘリで現場に向かい、病院前から救急診療に携わることが可能です。

③ さまざまなキャリアパスが可能

ジェネラリストの経験を生かして開業したり、育児をしながら活躍している女性医師のほかに、救急診療のスペシャリストを目指す医師にも最適なプログラムです。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

研修先及び研修内容

研修先及び研修内容	
1年目 (卒後3年目) ～ 3年目	- 基本的診療能力（コアコンピテンシー） - 救急科ER・ICU 基本的知識・技能 - 救急科病院前救護・災害医療基本的知識・技能 - 必要に応じて他科ローテーションによる研修

専門研修連携施設

1	青森県立中央病院
2	健生病院
3	東京医科大学病院
4	東京医科大学八王子医療センター
5	北里大学病院
6	横浜市立病院

サブスペシャリティ領域への展望

サブスペシャリティ領域として予定されている集中治療領域の専門研修は、プログラムのクリティカルケア・重症患者に対する診療を経験することで、集中治療領域の専門研修の経験すべき症例や手技、処置の一部を修得することができます。また、この経験は救急科専門医取得後の集中治療領域研修で活かしていただけます。今後、サブスペシャリティ領域として検討されている熱傷専門医、外傷専門医等の専門研修に関しても配慮していきます。大学病院の特色として他診療科とのコラボがあり、多様なサブスペシャリティ（脳神経外科・整形外科等）も対応可能です。

大学院・留学について

専門医取得に引き続き、専門的な研究を希望する場合には、弘前大学大学院への進学や国内国外への留学を行うことができます。

指導医からのメッセージ

急激な発症や不慮の事故により、生命の危機に瀕した患者さんを最初に迎え入れ、救命の糸口を切り拓くのが私たち救急医の最大の使命です。救急医療の現場では、内因性の急病から、重症外傷、中毒、さらには当センターの特色でもある特殊な災害・被ばく医療に至るまで、極めて多岐にわたる疾患と病態への対応力が求められます。本プログラムの最大の強みは、三次救急を担う高度救命救急センターでの豊富な重症患者の診療経験に加え、ドクターカーやドクターヘリを用いたプレホスピタル（病院前）診療から災害医療活動までをシームレスに学べる点にあります。また、各種標準化コースのインストラクター資格を持つ指導医が多数在籍しており、実践的かつ論理的な思考プロセスを基礎から丁寧に指導します。救急科専門医を志す方はもちろんのこと、将来的に救急IVR認定医や外傷外科・脳神経外科などのサブスペシャリティへ進む方、あるいは内科系・外科系にとらわれず地域医療を支えるジェネラリストを目指す方にとっても、ここで培う「いかなる緊急事態にも動じない初期対応能力」は、医師としての生涯にわたる揺るぎない財産となります。熱意ある皆様の参加を心よりお待ちしております。

（高度救命救急センター 副センター長 伊藤 勝博）

問い合わせ先

高度救命救急センター
担当者：山本（医局秘書）
tel 0172-39-5375
e-mail chigu.99@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学臨床検査専門研修プログラム

プログラムの特徴

- ① 実診療に役立つ検査技術・診断技術を習得できます。
- ② 診断技術のトレーニングが集中してできます。
- ③ 検査のみならず研究にも参加でき、translational medicineとしての臨床検査医学を学べます。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

研修先及び研修内容	
1年目 (卒業3年目)	基幹施設（弘前大学医学部附属病院）又は、連携施設（青森県立中央病院）。血液検査手技を修得する。
2年目	基幹施設（弘前大学医学部附属病院）1年 細菌検査、超音波検査手技を修得する。
3年目	基幹施設（弘前大学医学部附属病院）1年 研究に応用できる手技を修得する。臨床検査専門医受験資格取得。

専門研修連携施設

1	青森県立中央病院
---	----------

サブスペシャリティ領域への展望

- ・感染症専門医
- ・超音波専門医

大学院・留学について

希望に沿って対応します。原則として大学院入学を推奨します。

指導医からのメッセージ

現代医学の基盤である臨床検査医学を学ぶことができる機会とトレーニングの場を提供します。カリキュラムの履修のスケジュールや時間的配分などは比較的余裕があるのも大きな特徴です。ご不明な点があればいつでもご相談ください。

問い合わせ先

検査部・臨床検査医学講座

担当者：齋藤 紀先（臨床検査医学講座 准教授）

tel 0172-33-5111（内線：7201,4322）

e-mail norihiro@hirosaki-u.ac.jp

青森・弘前大による病理専門研修プログラム

プログラムの特徴

近年医療における病理の役割はますます重要になってきました。厚生労働省の施策においても病院に病理医が常勤することが医療の質にとって重要であるとしています。しかし全国的に病理医は不足しています。これは病理医の仕事が単に組織診断に留まっているという認識が強いからかも知れません。そうではありません。病理は殆どの臨床科と関係が深く、個人の能力を上げることが全体の医療に貢献することに繋がるという大きな魅力があります。本プログラムでは単に高い診断能力を養うだけではなく、治療に役立つ組織情報の提供、病態の解析や未知の疾患の探究、そして病理医の立場から医療全体のマネジメントができ、今後の日本の医療に真に役立つ病理医の育成を目指します。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

研修先及び研修内容

1年目 (卒業3年目) ～ 3年目	三年間の研修中に、病理組織診断、細胞診、病理解剖の必要件数を経験します。それとともに連携病院で最低6ヶ月間の研修を行います。連携病院での研修は集中的に行うほかに、毎週曜日を決めて通うことや、複数の連携病院での研修も可能です。また研修医指導に熱心な他県の病院もプログラムに入っていますし今後も充実させていきます。日本病理学会の企画によるハンガリーでの解剖研修も可能です。連携病院の選択や期間は、具体的には所属する講座との話し合いによります（大学院の項参照）。
----------------------------	--

専門研修連携施設

1	青森県立中央病院	11	大崎市民病院
2	青森市民病院	12	仙台オープン病院
3	弘前中央病院	13	つがる総合病院
4	国立病院機構弘前総合医療センター	14	健生病院
5	八戸市立市民病院	15	三沢市立三沢病院
6	むつ総合病院	16	JCHO 秋田病院
7	青森労災病院	17	東京医科大学病院
8	市立函館病院	18	平鹿総合病院
9	国立病院機構函館医療センター	19	新潟大学医歯学総合病院
10	大館市立総合病院	20	杏林大学医学部付属病院

サブスペシャリティ領域への展望

病理領域のサブスペシャリティとしては細胞診専門医資格がありますが、病理専攻医として研修中の間も細胞診の勉強は必要であり経験を積むことができます。

大学院・留学について

弘前大学医学部附属病院病理診断科・病理部では、三つの病理学講座いずれにおいても大学院に入学し社会人大学院生として病理専攻医となることが可能ですし、病理医が診断のみではなく病態解明も重要な仕事であることから、むしろ大学院入学を奨励しています。留学については専攻医修了後、いずれの講座に属しても可能です。

指導医からのメッセージ

病理のやり甲斐、どんな病理医を目指すか、自分も気付いていない可能性をどう磨いていくか…、まずは一度来て下さい。お話ししましょう（人体病理学・病理診断学講座 黒瀬 顕）。

弘前大学の病理専門研修プログラムは充実しております。一緒に病理医を目指しましょう。お待ちしております（分子病態病理学講座 水上 浩哉）。

様々な臨床科と関わりを持ち、治療に直結する診断を行う病理診断学はやりがいのある学問です。一緒に病理を勉強しませんか（人体病理学・病理診断学講座 吉澤忠司）。

問い合わせ先

病理診断科・病理部

担当者：黒瀬 顕

（病理診断科長、人体病理学・病理診断学講座 教授）

tel 0172-39-5328

fax 0172-39-5329

e-mail akurose@hirosaki-u.ac.jp

医学研究科分子病態病理学講座

担当者：水上 浩哉（分子病態病理学講座 教授）

tel 0172-39-5025

fax 0172-39-5026

e-mail hirokim@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム

プログラムの特徴

新・専門医制度で創設された「総合診療専門医」を育成するためのプログラムです。総合診療専門医は地域に立脚しながら、家族も含めた患者中心の医療を、包括的、継続的、効率的に提供することが求められており、高齢化の進行する我が国における医療のいわば切り札として大きな期待が寄せられています。都市部に比べ早くから高齢化が進んでいた青森県は、総合診療専門医を育てるための絶好のフィールドが全県至る所に存在します。本プログラムは、弘前大学医学部附属病院総合診療部と地域の医療機関が連携し、このような土壌を最大限に活かしながら総合診療専門医を育てるプログラムです。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：3年】

研修期間は3年間で、この中で総合診療専門研修Ⅰ（診療所的機能の研修）6ヶ月、総合診療専門研修Ⅱ（病院総合診療的機能の研修）6ヶ月を含め総合診療専門研修ⅠおよびⅡは合わせて18ヶ月研修することが求められます。さらに内科研修6ヶ月、小児科研修3ヶ月、救急研修3ヶ月を行う必要があり、更に選択科研修6ヶ月を行うことが可能です。

3年間のローテーション例を示します（ローテーションの順序は入れ替えが可能です）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科研修											
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総合診療専門研修Ⅱ						小児科研修			救急科研修		
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	選択科研修1			選択科研修2			総合診療専門研修Ⅰ					

専門研修連携施設

1	青森市民病院	12	板柳中央病院
2	健生病院	13	おいらせ病院
3	国立病院機構弘前総合医療センター	14	野辺地病院
4	青森労災病院	15	六ヶ所村医療センター
5	国保黒石病院	16	東通村診療所
6	かなぎ病院	17	南部町医療センター
7	つがる総合病院	18	大館市立総合病院
8	三沢市立三沢病院	19	青森県立中央病院
9	むつ総合病院	20	大間病院
10	つがる市民診療所	21	八戸市立市民病院
11	鱒ヶ沢病院	22	健生黒石診療所

サブスペシャリティ領域への展望

総合診療専門医を取得した後にさらに専攻するサブスペシャリティ領域の候補として、在宅医療、緩和医療などいくつかの分野が想定されていますが、現段階では未定です。今後日本専門医機構内で検討が行われてゆくことになっています。

大学院・留学について

専門研修と平行して大学院で履修することは可能です。博士号取得後は希望者には海外留学のための支援を行います。

指導医からのメッセージ

新時代の医療の担い手である総合診療専門医のあるべき姿を、わくわくしながら一緒に追究し、一緒に作って行きましょう。

問い合わせ先

総合診療部
担当者：米田 博輝（総合診療副部長）
tel 0172-39-5375 fax 0172-39-5475
e-mail hanada68@hirosaki-u.ac.jp

口腔外科専門医養成コース

コースの特徴

- 1 口腔外科学に関する専門的知識と臨床技能を有する歯科医師または医師の養成を目指します。
- 2 口腔外科専門医の取得に必要な口腔外科手術手技の修得のため豊富な臨床症例を経験させます。
- 3 口腔外科専門医の取得に必須の研修実績として、学会発表・論文発表を積極的に支援・指導します。
- 4 口腔顎顔面領域に発生する多様な疾患の診断と口腔機能回復に向けた治療の専門医を育成します。

研修開始から修了までの概要とポイント

【研修期間：6年】

研修先及び研修内容	
1年目 (卒後2年目)	本施設において通算2年以上、口腔外科全般を研修し、「口腔外科認定医」の取得を目標とします。
2年目	コース前半は口腔外科全般にわたり診断・治療・手術手技を修得します。
3年目	手術経験目標数は、基本的口腔外科手術30例以上の執刀、中難度口腔外科手術5例以上。また、口腔外科疾患症例の診断・周術期管理を20例以上経験することです。
4年目	口腔外科認定医取得後、本施設において通算3年以上、高度な口腔外科診療技能を修得し、「口腔外科専門医」の取得を目標とします。
5年目	コース後半は、口腔外科疾患症例に対する診断・治療・手術手技を幅広く修得し、学会発表・論文発表などの研修実績も目標とします。
6年目	- 手術経験目標数は、中難度以上の口腔外科手術40例を含む100例以上を執刀し、口腔外科入院症例を60例以上担当することです。 - 研修実績：学会参加・発表、研修会参加等により75単位以上。 - 論文業績：口腔外科学に関する学術論文3編以上、うち1編は筆頭著者。 - 以上の研修実績を元に申請し、筆記試験・口頭試問、手術実地審査を経て専門医取得となります。

〈専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標〉

- (1) 本学会専門医制度施行細則手術難易度区分表に従い、歯槽外科、良性腫瘍・骨折・悪性腫瘍・再建外科などの5分野から執刀手術100例以上。同5分野の入院症例50例以上ならびに口腔外科疾患の管理・診断症例として10例以上を担当すること。
- (2) その他、学会・研修会参加による所定の単位取得と口腔外科学に関する学術論文3編以上（1編は筆頭著者）の論文業績が求められます。

専門医養成コース（後期研修）協力病院

1	北秋田市民病院
2	三沢市立三沢病院
3	つがる総合病院
4	八戸市立市民病院
5	野辺地病院

主な関連学会

日本口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本顎関節学会、日本口腔インプラント学会、日本小児口腔外科学会、日本顎顔面インプラント学会、アジア口腔顎顔面外科学会、国際口腔顎顔面外科学会、その他

取得できる資格

日本口腔外科学会口腔外科認定医・専門医・指導医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）
 日本小児口腔外科学会専門医
 日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医
 日本顎関節学会専門医
 日本口腔科学会認定医 など

大学院・留学について

専門研修と並行して大学院（社会人含む）コースあり。学位取得研究の進捗状況に応じて研究専念期間を設ける（半年から1年程度）。博士号取得後は希望に応じて海外留学を斡旋する。

指導医からのメッセージ

（公社）日本口腔外科学会認定口腔外科専門医は歯科医師ばかりでなく医師も取得可能な制度です。

専門医取得のためには通算6年以上、学会指定研修施設において口腔外科全般の臨床研修を行うことが必要です。その後、書類審査を経て、筆記試験・面接ならびに手術実地審査に合格してようやく専門医取得となります。相当ハードルは高いのですが、是非チャレンジして下さい。

なお、専門医資格申請のためには「認定医」の取得が前提になっています。

当科は県内各地より口腔外科疾患症例が紹介されており、多岐にわたる口腔外科疾患症例を経験・担当することが可能です。研修期間内に本院歯科口腔外科の外来・病棟診療グループをローテートして、まんべんなく研修項目が修得できるように配慮しております。さらには6ヶ月間の麻酔科研修に引き続き6ヶ月間の救急部での研修も希望者を対象に行っております。

問い合わせ先

歯科口腔外科学講座

担当者：小林 恒（歯科口腔外科学講座 教授）

tel 0172-39-5127 fax 0172-39-5128

e-mail wako@hirosaki-u.ac.jp

専門研修プログラム



contents

Q1. 新専門医制度って？	60
Q2. 専門医って、どうすればなれるのですか？	61
Q3. 学位は必要ですか？	61
Q4. 学位を目指す専門医の取得が遅れるのでは？ 大学院についても教えてください。	62
Q5. 大学外の病院で引き続き専門研修を受ける場合と どこが違うのですか？	63
Q6. 初期研修を弘前大学で受けませんでした。 それでも、専門研修は大学で受けられますか？	64
Q7. 女性でも安心して研修できますか？	64
Q8. 弘前大学の特徴は？	64
Q9. 大学は給与が低いと聞きました。 弘前大学医学部附属病院における待遇は？	65
Q10. 迷っているあなたへ	65

Q1 新専門医制度って？

A

19の全基本領域について、中立的な第三者機関である日本専門医機構が中心となり、各学会と連携しながら運用する新しい専門医養成システムが新専門医制度です。

2017年度までの専門医制度では学会が運営主体でしたが、2018年度から始まった新制度では日本専門医機構が中心となり、各学会と連携しながら運営を行っています。

2年間の初期臨床研修を修了した医師は、卒後3年次以降さらに特定の分野について、高度で専門的な知識と技術を身につけるために、まず内科、小児科、皮膚科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、形成外科、リハビリテーション科、総合診療の19の基本領域と呼ばれる専門分野の中から一つを選び、概ね3～5年間程度の研修を受け、専門医試験を経て「〇〇専門医」の資格を得ることになります。その上で、さらに「循環器専門医」、「消化器外科専門医」などサブスペシャリティ領域専門医と呼ばれる上級の資格を目指して研鑽を積むことになります。このような制度運営の中心となるのが第三者機関である日本専門医機構であり、専門医の認定や更新、あるいは専門医養成のためのプログラムの最終的な認定などを行っています。

Q2

専門医って、どうすればなれるのですか？

A

基本領域の専門医を目指し専門研修を受けて下さい。

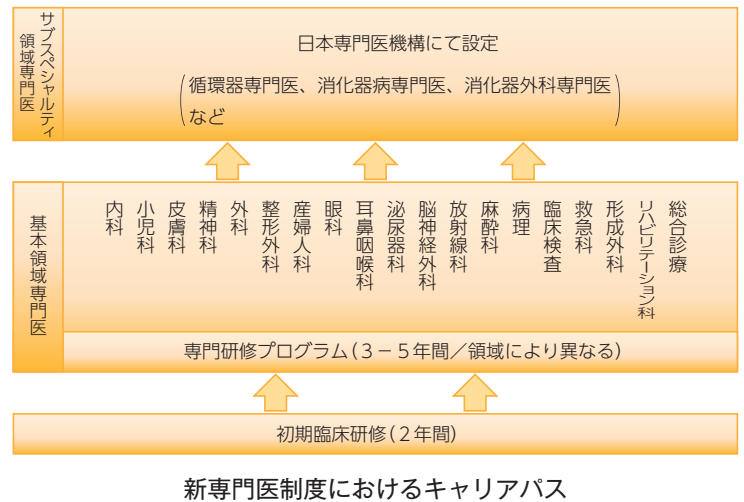
2018年4月から開始されている新専門医制度の仕組みの概要は以下のとおりです。

領域ごとに定められた期間、定められた内容の研修を受け、修了の基準を満たしていれば基本領域の研修が修了となります。その上で専門医試験を受験し、合格すれば「〇〇専門医」の資格が得られます。専門医資格を目指して研修中の医師を専攻医と呼びますが、専攻医になるためには、全国に数千設置されている専門研修プログラムのどれかに採用される必要があります。専門研修を開始するための専攻医募集は、例年11月頃に開始しています（詳細は日本専門医機構ホームページをご確認ください）。希望者は、いずれかのプログラムに応募し、選考過程を経て採用となります。

A

専門医制度は二階建て

2018年4月から開始されている新専門医制度は、原則いわゆる“二階建て制度”になっており、Q1の内科、外科、産婦人科、小児科など基本領域と呼ばれる分野の専門医が一階に相当し、循環器内科、消化器外科などサブスペシャリティ領域の専門医が二階に相当します。このうち現段階で新専門医制度で整備されているのは一階部分の基本領域専門医についてであり、その他のサブスペシャリティ領域の専門医制度についても現在整備されつつあります。いずれにせよ将来の我が国の医療を担っていく若い皆さんは、基本領域専門医資格に留まらず、是非より高度な知識や技術を身につけたサブスペシャリティ領域専門医までの資格も取得して、大いに活躍して頂きたいと思います。弘前大学は今までの学会専門医制度でも新専門医制度でも、基本19領域の専門研修プログラムを全て備えることはもちろん、その先のサブスペシャリティ領域専門医取得のための研修も用意して、皆さんをお待ちしています。



Q3

学位は必要ですか？

A

医療現場に必要なのは科学的思考法

専門医の資格と同様に重要な資格が学位（医学博士）です。専門医の資格がより高度で専門性の高い医療を行う上での認定証であるのに対し、学位は科学としての医学を修めたことの証明書とすることができます。将来は臨床の現場に進むのだから、学位は不必要であると思いがちですが、とんでもない誤解です。科学としての医学を修めることは最善の医療を実践する上で必要不可欠の要件になります。なぜかと言えば、学位を取得するためには事実を把握した上で物事の論理性を学び、その論理の妥当性を検証する作業を行わなければならない、知らないうちに臨床医として必要な科学的思考法が鍛えられているからです。そのような思考法は臨床経験から学べると思われるかもしれませんが、果たして、それはどうでしょうか？経験を独り善がりのものとしなないためには科学による裏付けが必要であり、学位を有するということは科学によって裏付けされた医療を行っている一つの証です。その意味からも、連携施設（いわゆる関連病院）の医長クラスの先生方は異口同音に、「学位は大切だ」とおっしゃっています。換言するなら、経験が重宝される時代から論理性が求められる時代へと臨床の現場も変貌していることであり、この傾向は今後益々加速するでしょう。

A

就職や昇進の条件・指導医取得の要件となることもある学位の有無

学位の有無を採用や昇給、昇進の評価要件としている施設は少なくありません。本学でも助教の採用にあたっては、学位の取得が必要とされています。また、一部の学会では、学位が指導医資格の取得要件となっている場合もあります。学位取得は、より高度な学問を修めた証であり、社会はそのような人材を求めています。中核病院で指導的立場にある医師の多くは、専門医資格と学位の両方を取得しています。さらに重要なのは、学位取得の過程で一つの未解決の課題に真摯に取り組むことにより得られる経験が、将来的に必ず役立つという点です。

Q4

学位を目指すと専門医の取得が遅れるのでは？ 大学院についても教えて下さい。

A

学位取得には一定の研究期間が求められますが、 学位取得と専門医取得は両立も可能です

学位を取得するには、大学院博士課程を修了する（いわゆる課程博士）か、研究生として一定期間大学に所属し、外国語試験に合格した上で論文を提出する（いわゆる論文博士）必要があります。いずれの場合も、原著論文を提出し、それが学位として認定されなければなりません。

大学院博士課程は通常、修了までに4年を要しますが、一定の条件を満たすことで修業年限を短縮し、3年または3年半で修了することも可能です（いわゆる「飛び級」）。また、社会人入学制度を利用すれば、卒後臨床研修や専門研修を受けながら研究を並行して行うこともできます。近年ではこの制度を積極的に活用する大学院生が増えており、社会人大学院生に配慮して、大学院講義は夕方5時以降に行われています。

A

専門研修専攻分野の先進的な研究課題に取り組むことでより充実した専攻研修へ

専門研修プログラムに在籍し、いずれかの病院に勤務しながら、社会人大学院生として大学院に進学することも可能です。大学院での研究課題に、自身が将来専攻する予定のサブスペシャリティ領域に関連する分野を選択すれば、研究と専門医研修の両面でより充実した学びが得られます。

なお、本院では「未来がん医療プロフェッショナル養成コース」を開設しており、特に将来、腫瘍系の専門医を目指す方には強くお勧めいたします。

A

卒後臨床研修1年目からの大学院入学が可能です

弘前大学大学院医学研究科では、原則、2年の臨床研修修了後に大学院入学を認めています。指導教授の了解を得ることにより、卒後臨床研修1年目から入学が可能です。一方、論文博士を目指す場合、臨床系では6年、基礎系では5年の研究歴が必要です。ただし、卒後臨床研修の2年間は研究歴には含まれないため、論文博士として学位を取得する場合、早くても医学部卒業後7年目（臨床系では8年目）以降となります。これらの大学院課程や入学方法の詳細については、本学大学院のホームページをご覧ください（<https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/index.html>）。

A

研究医育成事業により学位取得を支援します

弘前大学大学院医学研究科・附属病院では、弘前大学医学部附属病院で卒後臨床研修を行う研修医の増加を図ると共に、大学院医学研究科へ入学する優秀な人材を確保し、研究医として育成することを目的とした研究医育成事業があります。大学院の入学金や授業料の一部を助成する制度です。この制度の申請資格者は、本学附属病院の卒後臨床研修プログラムで臨床研修（初期研修）を受けながら本学大学院医学研究科へ入学する者、または同プログラムによる臨床研修を修了した方のうち3年以内の方で、助成内容は、入学料（282,000円）、1年次授業料（535,800円）と2年次授業料半期分（267,900円）の支援です。なお、採用人数は原則10名以内／年度です。内容に関する問い合わせは、弘前大学医学研究科総務課学務グループ（連絡先：電話0172-39-5204、メールjm5204@hirosaki-u.ac.jp）までお願いします。

Q5

大学外の病院で引き続き専門研修を受ける場合とどこが違うのですか？

A

大学では専門研修に特化した教育を行っています

大学での専門研修には二つの目的があります。一つは19の基本領域の専門医（一階部分の専門医）の資格を確実に取得すること。そして、もう一つは専門医の中の専門医（二階部分の専門医たるサブスペシャリティ領域の専門医）の資格を取得することです。また、基本領域の研修期間とサブスペシャリティ領域の研修期間の一部をできるだけオーバーラップさせ、最短期間でサブスペシャリティ領域専門医資格が取得できるよう工夫しています。サブスペシャリティ領域専門医資格の取得は残念ながら市中病院では一部施設を除いてはきわめて困難です。

A

大学では豊富な症例、重要な症例が確実に経験できます

大学のプログラムでは本学附属病院を初め、多くの連携施設（いわゆる関連病院）があり、これらの施設をローテートすることにより専門医資格を取得するために必要な豊富な症例、重要な症例を確実に経験することができます。

A

大学ではいっそう見識が高まります

大学のプログラムでは、本学附属病院及び連携施設（いわゆる関連病院）に多くの指導医たちが在籍しています。豊富な症例経験とともに、これら多くの指導医たちの指導を受けることにより、いっそう見識が高まり豊富な知識と確実な技術を効率よく身につけることができます。

Q6

初期研修を弘前大学で受けませんでした。 それでも、専門研修は大学で受けられますか？

A

勿論です。各専門研修プログラム紹介ページに掲載している問い合わせ先をご参照のうえ、積極的に応募して頂くよう期待しています。

Q7

女性でも安心して研修できますか？

A

勿論です。現在でもたくさんの女性医師が研修医、専攻医あるいはスタッフとして活躍しています。女性専用の当直室も完備してありますので、快適に過ごせるはずです。女性医師にとって専門研修期間中の結婚や出産等は大変気になるところですが、どの科でも誰に気兼ねすることなく結婚休暇や育児休業がとれるよう対応しています^(注)。また、弘前大学医学部のキャンパス内には、子育て中の教職員が安心して働けるよう、令和8年4月に認可保育園として新たに「ひろだい保育園」が開設されました。

さらに、平成27年には、出産後の職場復帰した女性医師への育児相談や情報交換等を行うためのコミュニケーションルームや休憩室などを備えた女性医師支援施設が設置され、女性医師の働きやすい職場環境が整備されました。

(注) 育児休暇などの期間に関しては研修先により異なります。



Q8

弘前大学の特徴は？

A

- (1) 新専門医制度に定める19の全基本領域の専門研修プログラムを用意しています。
- (2) 「専門医の中の専門医」たるサブスペシャリティ領域の専門医のスムーズな取得につながる教育を行っており、またそのための指導医が豊富です。
- (3) 各学会の理事や評議員が大勢在職しているので学会への入会が容易で、かつ学会の動向にリアルタイムに触れられます。
- (4) 基礎医学講座があるので臨床と研究が直結し、臨床から得られた疑問を解決する喜びを味わえます。
- (5) 頻繁に研修会や研究会が開かれ勉強の機会に恵まれています。
- (6) 多方面の専門家が在職しているため自分の専門外の最新情報や技術が、居ながらにして身につけられます。
- (7) 学会発表や論文作成等の指導を受けることを通して真のリサーチマインドを有する専門医となることができます。学会や論文で医学上の新しい知見を発表することは医師としての喜びでもあり、実績となり自信に繋がります。
- (8) 国内留学や国外留学の機会が得られ、国内外に友人ができて、一生の財産となる貴重な人脈ができます。
- (9) 多くの連携施設(いわゆる関連病院)での診療を経験する機会が得られ、貴重な症例の勉強に事欠きません。

A

- (10) 基本領域専門医、サブスペシャリティ領域専門医を取得したあかつきには大学で指導医として活躍する道や連携施設(いわゆる関連病院)での勤務など幅広い進路の選択が可能です。どの病院もこのような真の実力ある専門医を必要としています。
- (11) 大学院へ進学しながらの研修も可能です。専門医の資格と同時に学位(医学博士)の取得も可能です。
- (12) 附属病院のある本町キャンパス敷地内に「ひろだい保育園」が認可保育園として開設されました。
- (13) 我が国初の被ばく医療施設の機能を兼ね備えた「高度救命救急センター」を有しています。「高度」がつくのは大学病院だけです。屋上ヘリポートも完備し、広域をカバーする活発な救急医療が行われています。

Q9

大学は給与が低いと聞きました。 弘前大学医学部附属病院における待遇は？

A

大学での専門研修は将来に向けての重要な投資です

本院で勤務する専攻医の処遇は、基本的に病院助手や医員といった非常勤医師としての雇用となり、給与は年額約240～300万円です。これに加えて要件を満たせば通勤手当が支給され、勤務実績に応じて超過勤務手当等も支給されます。また、社会保険や労働保険にも加入します。他施設と比べると給与は控えめかもしれませんが、各領域のプログラムでは週1～2回の市中病院等での兼業(アルバイト)が認められており、月8～16万円程度の収入を得ることができます。

この兼業は、common disease の経験を積む貴重な機会であり、人脈形成にも役立ちます。さらに内科などの領域では、兼業先の外来症例が専門医取得の症例要件に寄与する場合もあるなど、教育的な意義のある取り組みです。そのうえで、兼業収入が家庭を持つ方を含め、さまざまな状況にある方の生活面を支える一助にもなっています。

また、専門研修の一環として、本院では経験しにくい症例を学ぶことを目的に、連携施設へ数ヶ月～1年間程度派遣されることがあります。この派遣期間中は派遣先病院の職員として勤務し、その病院の常勤医師と同等の給与が支給されます。

卒業後の数年間は、医師としての基盤を築き、専門性を高めていくための重要な時期です。もちろん給与面も気になると思いますが、本院での研修環境を通じて得られる幅広い経験や資格は、将来の収入面も含めたキャリア形成において確かな強みとなり得ます。

Q10

迷っているあなたへ

A

迷うあなたに多くの夢を提供し、実現してくれるのが大学です

「初期研修期間中にいくつかの診療科を回ったけれど、自分にあった診療科が見つからない」、「やりたい診療科があるのだけれどどこで研修を受けるべきか決心がつかない」、「医師としてのキャリアをどのように積んでいったらよいのかわからない」「自分が将来専攻するサブスペシャリティ領域が決まらない」など迷う要因は様々です。このような迷いを持つ者にとってこそ、大学は最も適した研修先と言えると思います。大学のプログラムでは確実に基本領域の専門医資格を取得することができ、大学院での研究も可能で、あなたの可能性を最大限に開花させてくれるでしょう。また、大学には多くの医師が仲間として在職しています。困った時に一緒に話を聞いてくれる同世代の専攻医、なんでも相談できる上級医、自分の理想となるような先輩医師など、大学では本当に素晴らしい仲間や先輩に囲まれて、自分を磨いていくことができることを私たちは約束します。

専門研修医に対する研修補助事業

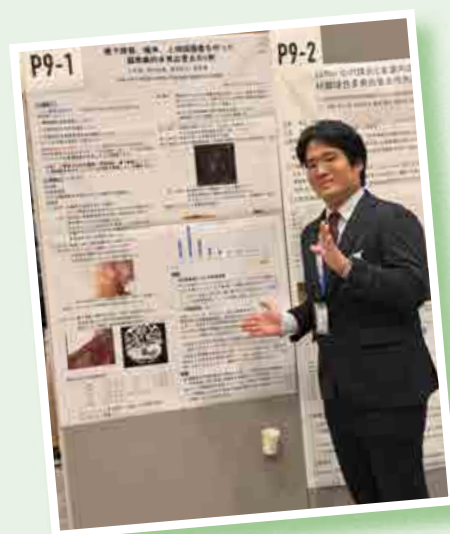
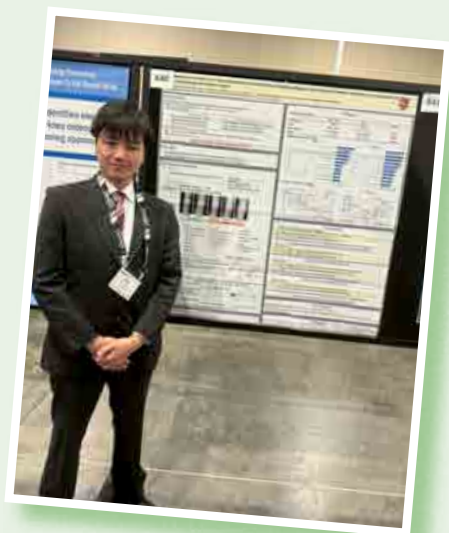
弘前大学医学部附属病院総合臨床研修センターでは、本院専門研修プログラム登録者（外勤者除く）の専門医取得を円滑に進めていただくために下記研修補助事業を行っています。

1. 学会発表に係る旅費補助（国際・国内（国内は全国学会のみ））
2. 研修会受講に係る補助（受講費及び旅費）

令和7年度実績（支援決定一覧）

1. 学会発表に係る旅費補助事業・・・国際 4件／国内 14件

【国際】	診療科(部)名	申請者名	学会名	演題名
第1回	1 脳神経外科	竹浪 大貴	BRAIN & BRAIN PET2025	Endovascular Embolization Technique for Distal Anterior Inferior Cerebellar Artery Aneurysm with Parent Patency
	2 脳神経外科	平川 葉月	BRAIN & BRAIN PET2025	Recanalization After Completely Thrombosed Ruptured Middle Cerebral Artery Dissecting Aneurysm
第2回	3 整形外科	富田 良	ISAKOS CONGRESS 2025	Changing amount of posterior tibial slope during unicompartmental knee arthroplasty does not affect short-term postoperative patients reported outcome measurement
	4 整形外科	倉 諒登	ISAKOS CONGRESS 2025	Normative Values Of Radiographic Parameters In Coronal Plane Lower Limb Alignment In Japanese General Population; Cross-Sectional Study In Iwaki Cohort



【国内】		診療科(部)名	申請者名	学会名	演題名
第1回	1	歯科口腔外科	山崎 峻也	若手口腔外科医交流会第3回学術集会	当科における歯原性角化嚢胞の臨床的検討
	2	歯科口腔外科	森 将太郎	若手口腔外科医交流会第3回学術集会	AYA世代口腔がんに対する超選択的動注化学放射線治療の治療経験
	3	歯科口腔外科	田村 好弘	第79回日本口腔科学会学術集会	口腔細菌定量検査を用いた一般地域住民における口腔バイオフィルム感染症の実態
	4	高度救命救急センター(呼吸器外科, 心臓血管外科)	木村 脩太	第42回日本呼吸器外科学会学術集会	呼吸不全を呈した新生児期のCPAMに対し生後4日目に左下葉部分切除術を施行した一例
	5	産科婦人科	薬袋 真帆	第77回日本産科婦人科学会学術講演会	妊娠初期より胎児の後頸部に多嚢胞性病変を認めた頸部髄膜瘤の1例
第2回	6	循環器内科, 腎臓内科	沖田 暁子	第70回日本透析医学会学術集会・総会	腹水濾過濃縮再静注法を要する難治性腹水を合併した多発性嚢胞腎・多発肝嚢胞の腎移植後の一例
	7	循環器内科, 腎臓内科	及川 迪香	第70回日本透析医学会学術集会・総会	横隔膜交通症と臍ヘルニアの手術を経ながら腹膜透析を継続している常染色体優性多発性嚢胞腎の一例
	8	整形外科	小野 惇	第48回日本骨・関節感染症学会	脊椎術前メチシリン耐性皮膚常在菌保菌者に対する術前バンコマイシンのSSI予防投与効果の検討—単施設後ろ向きコホート研究—
第3回	9	歯科口腔外科	松村 章弘	第70回日本口腔外科学会総会・学術大会	口腔癌切除後再発症例に対する超選択的動注化学放射線療法の有効性に関する検討
	10	歯科口腔外科	伊神 英治	第70回日本口腔外科学会総会・学術大会	舌骨傍リンパ節転移を認める口腔癌に対して選択的動注化学放射線治療が奏効した症例
	11	消化器内科, 血液内科, 免疫内科	芦田雄汰朗	第53回日本臨床免疫学会総会	心筋梗塞を繰り返した、JAK2変異陽性骨髄増殖性腫瘍に合併する血管炎にルキソリチニブが有効であった一例
第4回	12	循環器内科, 腎臓内科	川崎 浩司	第55回日本腎臓学会西部学術大会	好酸球性心筋炎、壊死性糸球体腎炎を合併した好酸球性多発血管炎肉芽腫症(EGPA)の一例
	13	耳鼻咽喉科頭頸部外科	三浦 峻	第74回日本アレルギー学会学術大会	嚥下障害、嘔声、上咽頭腫瘍を伴った顕微鏡的多発血管炎の1例
第5回	14	消化器内科, 血液内科, 免疫内科	萩原 将吾	第98回胃癌学会総会	早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層切除術後に尿閉をきたした患者の検討

2. 研修会受講に係る補助事業…10件

先輩医師からのメッセージ



大学で深める専門研修

芦田 雄汰朗 消化器内科, 血液内科, 免疫内科 病院助手

2021年3月 弘前大学卒

内科専門研修プログラム 2023年度開始

私は初期研修をむつ総合病院で行い、その後、大館市立総合病院にて後期研修を経験、医師5年目より弘前大学医学部附属病院消化器内科, 血液内科, 免疫内科に所属しています。地域中核病院および市中病院で幅広い疾患を経験する中で、日々の診療にやりがいを感じる一方、より専門性の高い診療を体系的に学びたいと考え、大学病院での研修を選択しました。

当科では、消化管、肝胆膵、免疫、血液・化学療法といった各分野に分かれてグループ診療を行っており、高度救命救急センターを含めたローテーションを約3か月ごとに行うことで、専門性と総合力の双方をバランスよく養うことができます。また、各分野の専門医から直接指導を受けられる点も大きな魅力です。

さらに、本学で経験した免疫領域の症例について、2025年に日本臨床免疫学会の症例検討セッションで発表する機会を得ました。その後本症例は2026年にFrontiers in Immunologyに症例報告として受理されました。このように臨床経験を学術的成果として発信できる環境が整っている点も、本プログラムの大きな特徴と感じています。

専門研修は決して容易ではありませんが、多様な経験を積みながら専門性を高めることができる重要な期間です。興味のある方はぜひ一度見学に来ていただき、その雰囲気を感じていただければ幸いです。



弘前大学での外科専門研修

木村 脩太 呼吸器外科, 心臓血管外科 病院助手
2021年3月 弘前大学卒
外科専門研修プログラム 2023年度開始

私は弘前大学を卒業後、青森県立中央病院で初期研修を行い、その後弘前大学胸部心臓血管外科へ入局のうえ弘前大学外科専門医プログラムで外科研修を開始しました。

当科での専門研修の魅力は何といっても豊富な症例数です。外科専門医を取得するにあたり最低経験症例数が設定されていますが、当科の研修は症例数に悩むことは全くありません。私は呼吸器外科を専攻していますが、呼吸器以外の領域も関連病院への派遣期間で非常に数多くの経験を積むことができました。自講座の先生方はもとより、消化器外科学講座の先生方からも症例数の不足がないか定期的に声をかけていただいております、外科学講座全体で外科医を育成する環境が完成されています。

また、各分野の専門医、指導医として長きにわたり活躍する先生方から指導を受けながら研修がおこなえます。国内外での学会発表の機会も多く、大学や医局からの参加費・旅費の補助もあり、経済的な負担なく参加することができました。当医局の心臓血管外科の先生で国内外へ留学をしている方もおり、希望に沿ったキャリア形成ができる環境です。

当科での外科専門研修は、全国の研修病院にも引けを取らない充実した研修を送ることができると思います。外科、特に呼吸器外科・心臓血管外科に興味のある方は、ぜひ当科へ一度見学にいらしてください。



弘前大学整形外科の魅力

富田 良 整形外科 病院助手

2021年3月 弘前大学卒

整形外科専門研修プログラム 2023年度開始



私はむつ総合病院での初期研修後、後期研修に当院の整形外科での研修を選択しました。学生の頃からスポーツに関わる仕事をしたいと考えており、整形外科を選択しました。

弘前大学での研修を選んだ理由としては専門分野を学ぶだけではなく、一般整形外科医として幅広い症例を学ぶことが出来る環境に魅力を感じたからです。また、当科の研修プログラムでは青森県全域に加えて秋田県北、函館市、富山県高岡市に関連病院があり、一人一人が多くの症例を経験するチャンスがあります。大学病院での半年間の研修後、関連病院での研修を行います。各病院に親身に指導をしてくださる指導医がおり、着実にステップアップすることが出来ます。

また当科では学術的な活動も積極的に行っており、指導医のサポートを受けながら学会発表を行うことが出来ます。私自身も2025年、2026年に海外学会で発表をさせていただき、貴重な経験をさせていただきました。

当科にはオールラウンドな能力と専門性の両方を伸ばすことが出来る環境が揃っています。一緒に研鑽を積める日を楽しみにしております。



診療の風景



弘前大学耳鼻科プログラムの魅力

三浦 峻 耳鼻咽喉科頭頸部外科 病院助手

2021年3月 弘前大学卒

耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラム 2023年度開始



私は弘前大学を卒業後、大館市立総合病院で初期研修を行い、その後弘前大学耳鼻咽喉科頭頸部外科での専門研修を開始しました。私が耳鼻科を選んだ理由は、聴覚や嗅覚など五感の多くを司るこの科が、患者さんの生活の質（QOL）向上にダイレクトに貢献できる点に強く惹かれたからです。現在は臨床の最前線で研鑽を積みながら、将来はアレルギー領域などを専門として深めたいと思っています。

弘前大学は青森県唯一の大学病院であり、進行癌や人工内耳といった高い専門性を要する手術症例や、難治性のめまいや嗅覚障害などのような外来症例など、様々な患者さんが集まってきます。専門研修が始まってすぐに身を置くことができるため、どんどん耳鼻科医として成長することができます。一方で、1年目から外来や手術の執刀などを指導医のサポートのもとで担当することができるため、自身のスキルアップを実感していきます。

近年入局者数が増加しており、学年の近い先輩がたくさんいて、相談も雑談もしやすいと思います。もちろん上級医も面倒見がよく、面白く優しい方たちばかりです。一緒に耳鼻科医として働いてみませんか？見学お待ちしています。



耳の診察風景

弘前大学医学部附属病院総合臨床研修センター

センター長	藤田 征弘（内分泌代謝内科学講座 教授）
副センター長	米田 博輝（総合診療部 准教授）
	當麻 景章（呼吸器内科，感染症科 准教授）
	橋場 英二（集中治療部 准教授）
専任教員	市川 博章（総合臨床研修センター 助教）
専門医研修部門運営委員会	
委員	櫻庭 裕丈（消化器血液免疫内科学講座 教授）
	富田 泰史（循環器腎臓内科学講座 教授）
	田坂 定智（呼吸器内科学講座 教授）
	照井 君典（小児科学講座 教授）
	皆川 正仁（胸部心臓血管外科学講座 教授）
	石戸圭之輔（消化器外科学講座 教授）
	石橋 恭之（整形外科科学講座 教授）
	山田 修平（附属病院総務課 課長）

部門の概要

弘前大学医学部附属病院は、高度医療を行う診療機関であると同時に、若い医師を育成する研修病院としての役割も持っています。総合臨床研修センターは、初期研修医および専門研修医（専攻医）の支援並びに研修プログラムの充実を目的に設置されている部門です。

部門の特徴・特色

総合臨床研修センターは、学内外への初期研修、専門研修の紹介やPR、また学内においては初期研修、専門研修への側面からの支援を主な役割としています。専門研修に関しては、これまでに、研修に必要な共通機器の導入、各診療ガイドラインおよび専門図書の購入、専門研修医の研修会受講費や外国研修参加旅費の支援等を行った実績があります。

2026年4月1日における本学専門医養成プログラムによる専門医取得者は延べ797名となっています。

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地
TEL : 0172-39-5178
FAX : 0172-39-5189
MAIL : jm5178@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学医学部附属病院専門研修プログラム

●お問い合わせ先●

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地

弘前大学医学部附属病院総務課総務グループ臨床教育・国際担当

TEL:0172-39-5178 FAX:0172-39-5189

MAIL: jm5178@hirosaki-u.ac.jp

総合臨床研修センターホームページURL

<https://edpostgr.hosp.hirosaki-u.ac.jp/>

